

高等学校における教科指導の充実

外国語科（英語）

コミュニケーション能力の
伸長を目指した授業展開の工夫

栃木県総合教育センター
平成22年 3 月

ま え が き

総合教育センターでは、基礎・基本の確実な定着を図るための授業改善を目指して、教科指導の在り方について研究し、その成果を普及することにより、生徒の学力の向上に資することを目的に、平成17年度より、「高等学校における教科指導の充実に関する調査研究」に取り組んでいます。

近年の教育課程実施状況調査や学力に関する国際的な調査では、日本の児童生徒の学力の状況や学習に対する意識などが明らかにされ、文部科学省等からも学力向上のための様々な対策が打ち出されたり提言がなされたりしています。

また、平成19年12月に公表された、OECD生徒の学習到達度調査（PISA2006年）では、科学的リテラシーをはじめ、数学的リテラシー、読解力のそれぞれについて問題点が指摘されています。

さらに、平成20年12月には、国際教育到達度評価学会（IEA）が行った国際数学・理科教育動向調査の2007年調査（TIMSS2007）の結果が公表され、学力低下に歯止めがかかったという分析がある一方で、パターン化された指導の弊害とも見られる結果も一部に見られ、思考力の育成に課題があることも指摘されています。

これらの調査の分析結果を踏まえ、中央教育審議会答申を経て、平成21年3月には、高等学校の新学習指導要領が公示されました。数学と理科が24年度から、国語、地理歴史、公民、外国語が25年度から学年進行で実施されます。今回の改訂の主な改善事項として、「言語活動の充実」、「理数教育の充実」が示されました。これらは、先に挙げた各種調査で、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式の問題、知識・技能を活用する問題に課題が見られたことなどに対する改善策でもあります。

本調査研究においては、今年度、国語科、地理歴史科、数学科、理科、外国語科（英語）の各教科で、各種調査の結果から指摘されている課題と新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、その解決を図るための授業改善について取り組みました。研究の成果をまとめた本冊子を有効に御活用いただければ幸いです。

最後に、調査研究を進めるにあたり、御協力いただきました研究協力委員の方々に深く感謝申し上げます。

平成22年3月

栃木県総合教育センター所長

瓦 井 千 尋

目 次

はじめに	-----	1
事例	コミュニケーション能力の伸長を図るための授業展開 ー 1 レッソンの展開方法の工夫ー	----- 4
事例	自己表現力を高めるための段階的指導の工夫 ーコミュニケーション能力を高めるためのライティングの指導法ー	----- 2 0
事例	自己表現力を高めるための段階的指導の工夫 ーコミュニケーション能力を高めるための英語 の指導法ー	----- 3 4
おわりに	-----	5 0

本資料は、栃木県総合教育センターのホームページ「とちぎ学びの杜」内、「調査研究」と「教材研究のひろば」のコーナーにも掲載しています。

「とちぎ学びの杜」 <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

はじめに

調査研究の背景

平成21年3月9日、新しい高等学校学習指導要領が公示された。改訂のポイントとして、以下の事項が挙げられる。

< 高等学校学習指導要領 第1章 総則（抜粋） >

第1款 1 学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

第5款 5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項

(1) 各教科・科目等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。

これらから、言語活動の充実、学習習慣の確立が重視されていることが分かる。

今回の改訂では、我が国の児童生徒について、OECD（経済協力開発機構）が行った「生徒の学習到達度調査（PISA調査）」や、文部科学省が行った「全国学力・学習状況調査」など、各種の調査から提起された以下の課題を踏まえている。

思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題（無答率が高い）が見られる。

読解力で成績分布の分散が拡大（成績中位層が減り、低位層が増加）しており、その背景には家庭での学習時間などの学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題が見られる。自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題が見られる。

OECDなどの研究成果からも、習得した知識を活用して主要な能力（キー・コンピテンシー）である思考力・判断力・表現力を身に付け探究させることが「生きる力」の育成につながる、と理論的に裏付けられた。その実現のためには、「習得・活用・探究」のバランスを取った学習活動の展開が重要である。

活用する力は、体験に基づいた言葉や非言語で表出される。このような表現力・コミュニケーション能力は、国語科を中核としながらも、全ての教科で養うべき能力であることが以下のように明示された。

< 高等学校学習指導要領解説 第1章 総説 第2節 改訂の基本方針（抜粋） >

知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。

確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるこ

と、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、これらのバランスを重視する必要がある。

このため、各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実すること、さらに総合的な学習の時間を中心として行われる、教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することとしている。

また、これらの学習を通じて、その基盤となるのは言語に関する能力であり、国語科のみならず、各教科等においてその育成を重視している。さらに、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、家庭との連携を図りながら、学習習慣を確立することを重視している。

各教科における言語活動として、以下のような具体的事例を工夫していくことが求められる。

< 平成20年1月中央教育審議会答申（抜粋） >

- ・ 観察・実験や社会見学のレポート作成において、視点を明確にして、観察したり見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録・報告する。（理・社）
- ・ 比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを利用して説明する。（数・理）
- ・ 仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価し、まとめて表現する。（理）
- ・ 体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述し、まとめたものを発表し合う。（特別活動・総合的な学習の時間）
- ・ 討論・討議などにより意見の異なる人を説得したり、協同的に議論して集団としての意見をまとめたりする。（特別活動・総合的な学習の時間）

以上の経緯を踏まえ、本調査研究では学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえるとともに、各種調査等から指摘されている各教科の指導上の課題の解決を図るための授業改善を目指した。各教科ごとに研究協力委員が3回の調査研究委員会における研究協議を行い、評価の観点を踏まえた教科指導の在り方について研究した。また、各学校における授業実践を通して事例を作成した。

* 以下、本冊子の中では、平成11年3月に告示された学習指導要領を「現行の学習指導要領」、平成20年3月に告示された学習指導要領を「新学習指導要領」と記す。

外国語に関して

平成21年3月9日に告示された高等学校学習指導要領（以下「新学習指導要領」と称す）では、外国語科の主な改訂の基本方針と改訂のポイントとして、次のようなことが示されている。

改訂の基本方針

- 「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。
- 4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行う。また、コミュニケーションを内容的に充実したものとすることができるよう、指導すべき語数を充実する。

改訂のポイント

- 必履修科目：
現行の選択必履修から「コミュニケーション英語」の共通必履修に変更する。
- 科目構成：
科目構成を変更し、4技能の統合的かつ総合的な育成を図るコミュニケーション科目、論理的に表現する能力の向上を図る表現科目、会話する能力の向上を図る「英語会話」に再編する。
- 主な改善事項：
 - ・指導する語数を充実する。コミュニケーション英語、及びを履修する場合においては、高等学校で1800語、中高で3000語を指導する。（現行、英語、英語及びリーディングを履修した場合、高校で1300語、中高で2200語）
 - ・生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とすることを明記する。

新学習指導要領が告示された際に、「英語の授業は英語で行う」ということが話題となった。しかし、現行の学習指導要領でも実践的コミュニケーション能力を養うことは目標とされている。調査研究では、「生徒が英語に触れる機会を充実する」または「授業を実際のコミュニケーションの場とする」ための、実践的コミュニケーション力の伸長につながる学習活動等について、指導の工夫に取り組んだ。

< 研究協力委員 >

栃木県立日光明峰高等学校	教諭	稲本	綾
栃木県立小山高等学校	教諭	城下	力也
栃木県立壬生高等学校	教諭	高山	晃子

< 研究委員 >

栃木県総合教育センター研修部	指導主事	大岡	寿子
----------------	------	----	----

- 1 レッソンの展開方法の工夫 -

1 課題設定の理由

新学習指導要領で新しく設置される科目「コミュニケーション英語」では、授業において、「英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う」ことが求められる。しかし、実際の高校の授業においては、教科書の本文の意味を理解させることが授業の主な目的となっている傾向が強く、内容を把握できた段階で指導が完結してしまう場合が多い。また、「適切に伝えたりする基礎的な能力の育成」はあまり行われていない現状がある。そこで本研究では、現在指導している英語において、「相手の考えや情報を理解し、自分の意見を伝える」ことができる力、つまりコミュニケーション能力の伸長を図るためには、どのように一つのレッスンを展開していったらよいかを研究することにした。

2 生徒の実態（診断的評価）

生徒の英語学習に対する意識を調査するため5月下旬に、アンケートを実施した。被験者は第2学年の生徒である。アンケートの結果は以下のとおりである。（資料1）

< 資料1 >

- | | |
|----|--|
| 問1 | あなたは英語が好きですか？（2肢選択） |
| | 1 好き(21名) 2 嫌い(11名) |
| 問2 | 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で得意なことは何ですか。（4肢選択） |
| | 1 聞く(4名) 2 話す(2名) 3 読む(12名) 4 書く(14名) |
| 問3 | 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で苦手なことは何ですか。（4肢選択） |
| | 1 聞く(3名) 2 話す(14名) 3 読む(12名) 4 書く(3名) |
| 問4 | 英語を「聞く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。 |
| | ・外国人が話す英語をしっかりと聞き取れるようになりたい。 |
| | ・話す相手が何を伝えているのか分かるようになりたい。 |
| | ・聞いたことを書けたり、意味をちゃんと理解できたりするようになりたい。 |
| | ・聞いたことを理解して話せるようになりたい。（多いものを抜粋） |
| 問5 | 英語を「話す」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。 |
| | ・英語を使って、自分の意見をはっきり言えるようにしたい。 |
| | ・できるだけ英語っぽく（発音をきれいに）話したい。 |
| | ・相手に自分の気持ちを伝えられるようになりたい。 |
| | ・自分の思っていることをぱっと言えるようになりたい。（多いものを抜粋） |
| 問6 | 英語を「読む」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。 |
| | ・すらすらと読めるようになりたい。 |
| | ・長い物語が読めるようになりたい。 |
| | ・英語の本を読んで、理解できるようになりたい。 |
| | ・書いている人が言いたいことを読み取りたい。（多いものを抜粋） |
| 問7 | 英語を「書く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。 |
| | ・いちいち考えなくてもすぐに書けるようになりたい。 |
| | ・スペルとか文法とか間違えないで書けるようにしたい。 |
| | ・自分の考えを正確に英語で書けるようになりたい。（多いものを抜粋） |

アンケートの結果から、生徒は4技能のうち、特に「話すこと」に対して苦手意識をもっていることが分かる。また、4技能のうち、「聞くこと」「読むこと」については、相手が言っていることを聞き取りたい、読み取りたい、「話すこと」「書くこと」に関しては、自分が伝えたいことを相手に正確に伝えられるようになりたい、自分の考えや気持ちを英語で表せるようになりたい、などの願望をもっていることが分かる。これらはコミュニケーションを図る際に非常に大切な要素になる。

さらに、研究の事前テストとしてリスニングテスト（英検準2級リスニング問題）とスピーキングテスト（ALTとのインタビュー形式のテスト）を実施した。

3 本研究の流れとねらい

本研究は、以下の流れで実施した。

5月下旬	事前アンケート、事前テストを実施する。
	↓
6月～7月中旬	Lesson 2, 3 の授業を実施する。
	↓
8月	Lesson 2, 3 の授業方法や効果を考察し、改善点を明確にする。
	↓
9月	Lesson 4 の授業を実施する。
	↓
10月	事後アンケート、事後テストを実施し、1つのレッスンの授業の展開の方法を考察する。

本研究は、次の三つのねらいを設定した。

ねらい1：英語を用いた授業展開を心がける

ねらい2：生徒が考える、創造力を引き出すコミュニケーション活動を行う

ねらい3：ペアワーク、グループワークを取り入れる

授業の流れは、「導入→展開→まとめ」であるが、どの指導段階においても上記の三つのねらいに基づいた言語活動を行った。

4 実践内容（1） - Lesson 2 の授業の実践 -

以下は、Lesson 2 *Tofu Dishes in the U.S.* (Surfing、文英堂)の本文（資料2）と到達目標である。あるアメリカ人女性が初めて豆腐を食べた時の体験と、L.A.で毎年行われる Tofu Festival について述べた英文である。

<資料2> 教科書 本文

Part 1

I remember the day when I first ate tofu. I found that it didn't have much flavor, so I put some salad dressing on it. But I soon got used to the taste of plain tofu. Now tofu burgers are my favorite food. Today more and more Americans are eating tofu. They know that eating tofu helps them stay slim and healthy.

Part 2

Every year, the L.A. Tofu Festival is held in Little Tokyo. It is an area where many Japanese-Americans live. I went to this festival last year. Thousands of people were enjoying various kinds of tofu dishes there. In the afternoon, there was a tofu-eating contest. However, I was too full by then to take part in that.

到達目標

教科書に出てきた新出単語や本文の内容を別の英語で言い換えたものを聞き、内容を理解することができる。

教科書で学習した内容について、口頭で要約することができる。

教科書で学習した文法事項、関係副詞 when、where を使って話したり、書いたりすることができる。

世界で、日本の食べ物がどのように紹介されているかについて理解することができる。

(1) 導入

ワークシート(資料3)を用いての導入

<ワークシートの使用方法>

- 1 「豆腐」について生徒が知っていることをブレインストーミングの形で挙げさせる。
- 2 「3」で使用する表現を和文英訳の形式で練習させる。
- 3 「2」の表現を用いて、ペアで会話練習させる。空所に英文は書かせずに口頭で練習させる。
- 4 「3」で相手が発話した内容を英語で書かせる。



<資料3>

(English Worksheet No.7)

Let's talk about Tofu!

STEP 1 Write down some keywords related to Tofu

white healthy "Momen" and "Kinu" delicious soft square circle made from soybeans

STEP 2 Let's talk about Tofu with your partner. <Before you start talking>
Useful expressions:

① 圭司は、〇〇で豆腐を食べるのが好きだ。
(Keiji likes eating Tofu in)
② きみはどお? (How about you?)
③ もめんと絹のどちらを普通食べてる?
(Which do you usually eat "Momen" or "Kinu"?)
④ ところで (By the way)

STEP 3 Let's talk about Tofu with your partner.

A: Do you like Tofu?
B: (). I often eat Tofu in ().
あなたはどお? Do you like Tofu?
A: (). By the way, もめんと絹のどちらを食べている?
B: (). あなたはどお?
A: ().

STEP 4 Write down what your friend spoke.
友達が発話したことからわかったことを英文にしよう。

"Yuka and Tofu"
I'm going to talk about Yuka and Tofu. Yuka likes eating Tofu in miso-soup.
She also likes eating Kinu tofu.

(2) 展開

(ア) 新出単語の確認

新出単語の意味を日本語で確認させた。

教師が他の英語で単語を説明し、生徒はそれを聞いてどの単語の意味を言っているのかをペアで考えさせた。例えば、教師が、a thin sauce used to add flavor to salads と説明する場合、dressing と答えることができたなら着席させる。

(イ) 本文の内容の確認

英語で質問を提示した。

Part 1 の場合 - Question 1: What did the writer put when she first ate tofu?

Question 2: What are the writer's favorite food?

教科書を閉じさせ、絵や実際の豆腐を提示しながら簡単な英語で Oral Introduction を行った。生徒には で提示した質問の答えを探しながら英語を聞かせた。

ペアで、質問の答えを確認しあわせた。

教科書を開き、英文を読み、自分が書いた答えが正しいかを各自で確認させた。

(ウ) 音読

音読の目的を明確にしながら、コーラスリーディング、オーバーラッピング、シャドーイング、リードアンドルックアップと少しずつ難しい読み方に挑戦させた。また、個人読みだけでなく、ペアで読みあうことを必ず取り入れた。

(3) まとめ

(ア) ワークシート(資料4)を使用したストーリーリプロダクション

生徒には絵やキーワードを頼りに、教科書を見ないで本文の内容を口頭で再生させた。練習はペアで行わせた。

<ワークシートの使用方法>

- 1 教科書を閉じさせる。教師が読む英語をディクテーションの空所には書き入れさせる。
- 2 <Dictation>の部分を折らせ、絵だけを見て、教師の後について英文を言わせる。生徒が発話するのは<Dictation>の部分で、生徒が空所に補充した英語を含むようにする。
- 3 ペアワークをさせる。一人の生徒は絵の部分だけを見て英文を言い、もう一人の生徒は<Dictation>のほうを見て発話される英文を確認する。

<資料4>

Lesson 2 Part 1

① I remember the day ...

② I found that it ...

③ so I put ...

④ But I soon got ... plain tofu

Dictation

I remember the day () I () ate tofu. I () that it didn't have much (), so I () some salad dressing () it. But I soon got (X) the taste of () tofu.

<資料5>

(イ) 文法事項の定着を図るためのコミュニケーション活動

関係詞 where の定着を図るために、ワークシート(資料5)を用いたコミュニケーション活動を行った。

<ワークシートの使用方法>

- 1 ランダムにペアを組ませる(生徒に数字を書いたカードを配り、生徒は同じ数字を持っている相手を探し、ペアを組む)。
- 2 まず、1～6の質問に対する自分の答えを書かせる。その後、その質問をペアで尋ね合わせ、相手の答えを余白にメモさせる。
- 3 相手が言った答えを基に英文でまとめさせる。

(English Worksheet No.8)

Tell me about...

STEP 1 Walk around the class, and find your partners.

STEP 2 Practices the dialogue in pairs.

Example:
A: Tell me the place where it is comfortable for you.
B: It's in (my room).

1. Tell me the country where you like to live	America	America
2. Tell me the place in Japan where you want to live	Hokkaido	Kanagawa
3. Tell me the place where it is comfortable for you	Michino Station	My room
4. Tell me the place where it is convenient for you	Seven-eleven	Seven-eleven
5. Tell me the shop where you often go	Seven-eleven	Book store
6. Tell me the place where you watch TV	Living room	Living room

STEP 3 Write down what your partners say

I'm going to tell you the place where it is comfortable for
It is in the Michino Station.
Wow!!
Natsushima Kouhei

STEP 4 Present the sentences to the class.

4 できあがった英文をクラスの前で発表させる。

5 実践内容（１）の考察

（１）「導入」について

今回の導入のねらいは、生徒の経験や知識とレッスンの主題（今回は豆腐）とを関連付けることで、教材をより身近なものとしてとらえさせることである。ブレインストーミングは今回初めて取り入れたが、生徒は意欲的に取り組み、様々なアイデアが出てきた。従来は、導入段階では本文の内容の要約を口頭で示して生徒に聞かせるというような指導をすることが多かった。従来の導入方法よりも、今回の導入方法はテキストを読もうという雰囲気が作り出せた。

（２）「展開」について

新出単語の確認は、これまでは日本語での意味の確認のみだったが、今回初めて英単語の意味を英語で理解させる活動を取り入れた。生徒は、教師の発話する英語を注意深く聞き、どの単語の意味を説明しているのかを積極的に答えることができた。終了後、生徒に感想を聞いたところ、「楽しかった。」という意見が多かった。

また、Oral Introduction に関しては、生徒から「分かりやすかった。」という感想が多数聞かれた。特に、豆腐に醤油ではなくサラダドレッシングをかけて食べたという場面を実演したところ、「えっ、サラダドレッシングかけちゃうの？ありえない。」などという声が挙がった。生徒の興味を引くことができ、その後の Questions and Answers もスムーズに進めることができた。実物や写真などを提示すると、生徒の意欲を高めることができることを実感した。

（３）「まとめ」について

関係詞 where が「意識しなくても読めている、聞けている、言えている、書けている」という状況を設定するためのコミュニケーション活動を取り入れた。生徒は、質問文の意味を理解しなければならない。また、それを友達に言ったり、逆に聞き取ったりする必要があり、また where を使った英文を書くことが課されている。４技能の統合を図る活動として効果的であった。

（４）改善すべき点

（ア）新出単語の確認

教師が英単語の意味を他の英語で説明するのを聞き、どの単語かを当てるゲームでは、ペアで答えることができれば着席することができたため、一度答えて着席してしまうと緊張感を保つことが難しかった。そのため、全員の生徒が緊張感をもって考えたり、答えたりするような活動の工夫が必要である。

（イ）本文の内容の確認

本単元では、「英語での質問を二つ提示 → 教師による Oral introduction を聞きながら質問の答えを探す → 教科書を読みながら質問の答えを再確認する」という指導手順だった。と はリスニングとリーディングという活動の違いはあるものの、質問内容は同一のため、で既に答えを探すことができている生徒にとっては、の活動はあまり意味のないものになってしまった。

（ウ）まとめの活動

今回は、文法事項の定着を図るためのコミュニケーション活動を行った。文法と言語活動を一体化した指導としては効果があった。しかし、まとめの活動としては、本文の内容を基にした発展的な活動や生徒同士の意見を伝え合う活動を取り入れることも必要ではないかと感じた。

(エ) その他

生徒が授業に自発的に参加したり、学習内容がどの程度理解できたかなどを確認したりするために、生徒自身にその日に学習したことが身に付いたかどうかを自己評価させる必要性を感じた。そのためには、活動ごとの目的や到達目標などを生徒に明示することが重要であると考えた。

6 実践内容(2) - Lesson 4 の授業の実践 -

前ページ5で述べたような改善点を踏まえ、Lesson 4を指導した。以下はLesson 4 *My life in Japan* (Surfing、文英堂)の本文(資料6)と到達目標である。内容は、インドからの留学生、カシシ君が日本で体験したり感じたりしたことについて述べたものである。

<資料6> 教科書 本文

Part1

Many Indians know that Japan is a high-tech country. After two years in Japan, I have learned that Japan is an old, traditional country as well. I belong to the tea ceremony club. At a charity party last Sunday, I wore kimono and made tea. Although the ceremony is difficult to learn, I love the simple and elegant style of the tea ceremony.

Part2

India may remind you of curry dishes. Indian curry is different from Japanese curry. Indian curry is very hot. At the school festival, I made Indian curry. I had difficulty getting the spices to cook it with. My curry was very popular with Japanese students. I have gotten used to Japanese dishes. My mother's dishes may be too hot for me now.

Part3

When I started to learn Japanese, I thought, "Why do I have to use kanji?" It seemed that hiragana was good enough to express everything, but I came to love using kanji. My favorite kanji is oya (parent). It consists of three parts which mean "stand," "tree," and "watch." This kanji reminds me of my parents, who are watching over me from India. How heartwarming this kanji is!

到達目標

教科書に出てきた新出単語や、本文の内容を別の英語で言いかえたものを読んだり、聞いたりして、意味を理解することができる。

教科書で学習した内容について、口頭で要約することができる。

教科書の話題について、自分の考えを伝えたり相手の意見を理解したりできる。

日本の文化や習慣に関する自国理解を深める。また、世界ではいろいろな言語が話され、様々な生活様式があることを理解することができる。

指導過程

時数	指導内容
1	1. レッソンの導入：Brainstorming 2. 新出単語の意味確認 (Part1 の新出単語、表現の意味を英語で確認する)
2	1. Part 1 の概要をつかむ：Outlining(教師の Oral Introduction をメモを取りながら聞く) 2. Part 1 の本文 (CD) を聞く 3. Part 1 の本文を読む：Reading Comprehension (質問の答えを探しながら読む) 4. 音読：Repeating, Shadowing

3	1. Warm-up : Chatting, Reading practice 2. 口頭要約 : Story reproduction (教科書の内容を口頭で再生する) 3. ディスカッション : Discussion on a question related to the topic of Part 1
4	1. Warm-up : Chatting, Reading practice 2. 新出単語の意味確認 3. Part 2 の概要をつかむ : Outlining 4. Part 2 の本文 (CD) を聞く 5. Part 2 の本文を読む : Reading comprehension 6. 音読 : Repeating, Shadowing
5	1. Warm-up : Chatting, Reading practice 2. 要約 : Summary of the text filling in the blanks 3. ロールプレイ
6	1. Warm-up : Chatting, Reading Practice 2. Part 3 の概要をつかむ : Outlining 3. Part 3 の本文 (CD) を聞く 4. Part 3 の本文を読む : Reading comprehension 5. 音読 : Repeating, Shadowing
7	1. Warm-up : Chatting, Reading practice 2. 口頭要約 : Story reproduction 3. レッソンの復習

(1) 導入

ワークシート (資料7) を用いての導入

<ワークシートの使用方法>

- 1 ペアで、将来行きたい国について話し合わせる。その際、I want to visit ○. で終わるのではなく、because で文をつなぎ、理由も述べさせる。
- 2 相手が言った内容を、英語で表現させる。
- 3 インドに関連する写真を見せ、何に関する写真であるかを考えさせ、英語で書かせる。
- 4 チャイ (インドの紅茶) の作り方を示す4つの英文を提示し、適切な順番に英文を並べ替えさせる。

このレッスンでは全てのワークシートに、
<授業を振り返ろう> という欄を設けた。授業の最初にその授業の目標を明示し、生徒自身にその目標を達成できたかどうかを自己評価させた。

<資料7>

My Life in Japan①

STEP 1 Talk about the following topic with your partner.
"Which country do you want to visit in the future?"
Example:
A: Which country do you want to visit in the future?
B: I want to visit Hawaii because the sea is beautiful.

STEP 2 Write down what your friend spoke.

She wants to visit Italy because
she thinks that their food are delicious.

STEP 3 Guess what these pictures are about.


grave


shoes


X

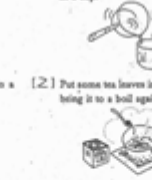

movie theater
Bollywood

STEP 4 Consider the order of these pictures.

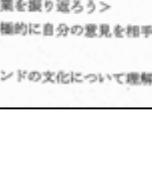
[3] Add some milk and sugar, and turn the gas down.



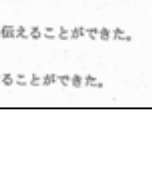
[4] Boil it for a while and serve it in a cup.



[1] Put some spices and water in a pan and bring it to a boil.



[2] Put some tea leaves in the pan and bring it to a boil again.



<授業を振り返ろう>

・積極的に自分の意見を相手に伝えることができた。

・インドの文化について理解することができた。

< 資料 8 >

(2) 展開

(ア) ワークシート (資料 8) を用いた新出単語の確認

本文を読む前に、新出単語の意味を英語で確認する作業をした。活動後にワークシートを回収し、生徒の自己評価を集計したところほとんどの生徒が、英語で新出単語の意味を理解できていた。

< ワークシートの使用方法 >

- 1 ワークシートを配布する。新出単語とそれらを既習の英単語や簡単な英文で言い換えたものをマッチングさせる。日本語の意味は提示する。
- 2 「 1 」とは逆にし、簡単な英文を提示し、それが表す英単語を選ばせる。日本語は提示しない。

(イ) 本文の内容確認

本文の内容確認は二回に分けて行った。一回目は、教師が簡単な英語で教科書の内容を説明し、生徒にはそれを聞きながらノートにメモをとらせた。

二回目は教科書を開き、教師が提示する三つの質問

Question1: How long has Kashishi lived in Japan?

Question2: What club did he belong to?

Question3: What feature of the tea ceremony does Kashishi love?

の答えを探しながら読ませた。

資料 9 は生徒のノートの一例である。ノートの右ページの上が の時に生徒がとったメモである。右ページの下が の質問に対する答えが書かれている。和訳をして理解するのではなく、英語で内容理解を図っていることがノートからも読み取れる。

< 資料 9 >

LESSON4-1

Many Indians know that Japan is a high-tech country. After two years in Japan, I have learned that Japan is an old, traditional country as well.

I belong to the tea ceremony club.

At a charity party last Sunday, I wore kimono and made tea. Although the ceremony is difficult to learn, I love the simple and elegant style of the tea ceremony.

Before you read

- * Taj Mahal: タージ・マハル
- * temple: 寺院
- * form: 種類
- * entertainment: 娯楽
- * spice: 香辛料
- * pan: パン
- * simmer: とろとろ煮る
- * Indian: インドの、インド人の、インド人

Part 1

take notes and draw pictures

Kashishi - an Indian.

Japan - high-tech country + an old traditional country

Kashishi - Ken

He wore Kimono

the tea ceremony club simple and elegant

Questions

1. How long has Kashishi lived in Japan?
- He has lived in Japan for two years.
2. What club did he belong to?
- He belonged to the tea ceremony club.
3. What feature of tea ceremony does Kashishi love?
- He loves the simple and elegant style of the tea ceremony.

NOTICE

The tea ceremony is difficult to learn. It is difficult to learn the tea ceremony.

(ウ) 音読

Lesson 2 同様、様々な音読の方法を取り入れ、個人やペアで練習をさせた。(練習方法の詳細は Lesson 2 の箇所を参照)

(3) まとめ

(ア) ワークシート(資料 10)を使用したストーリーリプロダクション

Lesson2 と同様にストーリーリプロダクションを実施した。生徒は絵やキーワードを頼りに、教科書を見ないで本文の内容を口頭で再生した。練習はペアで行わせた。

<ワークシートの使用方法>

- 1 教科書を閉じさせる。教師が読む英語をディクテーションの空所に入れさせる。
- 2 < Dictation > の部分を折らせ、絵だけをみて、教師の後について英文を言わせる。生徒が発話するのは< Dictation > の部分で、生徒が空所に補充した英語を含むようにする。
- 3 ペアワークをさせる。一人の生徒は絵の部分だけを見て英文を言い、もう一人の生徒は< Dictation > のほうを見て発話される英文を確認する。

<資料 10>

Lesson 4 Part 4

①  I ...
a member of the 茶道部

② Last Sunday, I ...
 and ...


③  難しいよー
 好きだよー
Although ... , I love the ...

I () the tea () club. Last Sunday, I
() kimono and () tea. () the ceremony is
difficult to (), I love the () and ()
style of the tea ceremony.

(イ) レッソンのまとめとしてのコミュニケーション活動

コミュニケーション活動は二種類実施した。

本文の内容に関するディスカッション

実施手順

- (1) 4人ずつのグループに分ける。
- (2) Japan is a high-tech country. After two years in Japan, I have learned that Japan is an old, traditional country as well." に基づき、日本は high-tech country か old, traditional country について考えさせた。

どちらの意見に賛成するのか、またその理由は何か、をグループごとに英語でワークシートに書かせた。資料 11 は賛成としたグループが作成したもの、資料 12 は反対としたグループが作成したものである。



< 資料 11 >

[Lesson4-③] **My Life in Japan③**

STEP1 Do you think Japan is a high-tech country? **Yes or No?**
Some students will think it's a high-tech country, but others may think it's an old, traditional country rather than a high-tech country.

Why?

A: Japan is a high-tech country because . . .

It has many trains and cars.
Many people have cell phones.
We make robots for the future.
Medicine has advanced.
We can borrow CDs and DVDs easily.
We can do many things using Internet.

B: Japan is an old, traditional country because . . .

STEP2 Discuss which side you agree with.
I think Japan is _____ rather than _____

<授業を振り返ろう>
・積極的に自分の意見や考えを表現できた。 ◎ ○ △ ×
・日本についてどんな国か考えることができた。 ◎ ○ △ ×

Class _____ Number _____ Name _____

< 資料 12 >

[Lesson4-③] **My Life in Japan③**

STEP1 Do you think Japan is a high-tech country? **Yes or No?**
Some students will think it's a high-tech country, but others may think it's an old, traditional country rather than a high-tech country.

Why?

A: Japan is a high-tech country because . . .

B: Japan is an old, traditional country because . . .

It has many temples. It has great image as Buddha.
We have Yamato spirits. It has kimono.
It has many festivals. It has green tea.
It has kabuki. It has Mt. Fuji.
It has Noh. It has pottery.
It has kana.

STEP2 Discuss which side you agree with.
I think Japan is _____ rather than _____

<授業を振り返ろう>
・積極的に自分の意見や考えを表現できた。 ◎ ○ △ ×
・日本についてどんな国か考えることができた。 ◎ ○ △ ×

Class _____ Number _____ Name _____

(3) 教師が各グループから出てきた意見をまとめ、次の授業で提示し、ワークシート(資料 13、14)を用いて次のように指導した。

< ワークシートの使用方法 >

- 1 日本が high-tech country か old, traditional country かについて生徒の意見をまとめたもの(資料 13)を読ませ、「これはすごい! よく気がついたなあ」という意見には、「これは納得」には○、「これは違うのではないか?」には をつけさせる。
- 2 や○の数を書えさせ、最終的に自分がどちらの意見に賛成するかを生徒に決めさせ、英語でワークシート(資料 14)に記入させた。理由を英語で書くことが難しい生徒がいるので、英語を書くことよりも自分の意見を書くことの方を優先させ、日本語を用いてもよいことにする。
- 3 ALT に意見を聞き、それをワークシートに載せておき、生徒たちに読ませる。

< 資料 13 >

(Lesson4-③のまとめ) **My Life in Japan③**

STEP1 Do you think Japan is a high-tech country? **Yes or No?**
Some students will think it's a high-tech country, but others may think it's an old, traditional country rather than a high-tech country.

A: Japan is a high-tech country because...

- it has advanced technology.
- ③ Tokyo is one of the most famous cities in the world.
- ③ Japanese are able to receive medical treatment.
- Japanese have their own cell phone.
- It has tall buildings (skyscrapers).
- Japanese often use computers.
- ③ it has companion robots.
- there are water services in many places in Japan.
- ③ its toilet sheets are warm and comfortable.
- ③ Japanese TV system has changed into ground controlled one.
- It has high-speed trains and cars.
- its health-care industry is advanced.
- Japanese can borrow CDs and DVDs easily.
- It has very advanced machines.
- Japanese is very smart.
- its science and technology is very advanced.
- ③ It opens various places of amusement.

B: Japan is an old, traditional country because...

- it has old temples such as Kinkakuji, Ginkakuji and Todaiji.
- it has hot springs like Kinugawa.
- it has cultural heritages.
- ③ it has been keeping Japanese culture like tea ceremony.
- ③ Japanese still keep the Japanese spirit.
- it has many festivals.
- it has classical entertainments such as Kabuki and Noh.
- it has potteries such as Mashiko-yaki.
- ③ Japanese are sometimes influenced by Buddhism.
- Japanese wear Japanese clothing such as kimono.
- it has Mt. Fuji.
- it has the Japanese phonetic alphabet like Kana.
- it has old musical instruments, for example wadaiko.
- it has a national sport and martial arts such as sumo and judo.
- it has a traditional art, for example calligraphy.

< 資料 14 >

STEP2 Discuss which side you agree with.
I think Japan is a high-tech country rather than an old, traditional country.
理由は何か? むい

日本の医療技術とか、確かに言われてみれば、そうだなと思う意見が多くあるから。

STEP3 Just for your information, here are opinions of Allen sensei. Please read them.

A: Japan is a high-tech country because...

- it has very advanced cell-phone technology.
- it has high-speed trains.
- it has many advanced technology companies such as Sony and Mitsubishi.
- Japanese have their own cell phone.
- It is famous for its scientific discoveries.

B: Japan is an old, traditional country because...

- it has many old buildings and temples.
- it has a very old, very traditional culture.
- it still has many small farms and small villages.
- it has a strong sense of what it means to be "Japanese."

<授業を振り返ろう>

- 積極的に自分の意見や考えを表現できた。
- 日本についてどんな国が考えることができた。
- 友達の良い意見を批判的に読むことができた。

その他自由にこの活動に対する意見を書いて下さい。

改めて日本の文化や技術について考えてみたら、意外と考えがまとまらなくて難しかった。

Class _____ Number _____ Name _____

ワークシートを使用しての本文の要約

< ワークシートの使用方法 >

- 1 ワークシート（資料 15）を配布する。
- 2 ペア活動で本文を要約する。

ブランクを埋めながら、教科書の内容の要約を完成させる。生徒のオリジナリティーを発揮させるために、教科書には書かれていない内容で、生徒が自分の考えを記入する空所を、一カ所作しておく。

完成したダイアログを、ペアで練習する。相手の目を見たり、感情を込めたりして、「会話である」ことを意識させる。

< 資料 15 >

(Lesson4-⑤)

My Life in Japan⑤

STEP 1 Read the following dialogue and fill in the blanks

Interviewer: It's a great pleasure to welcome to Mibu High School Live. Hello, Kakashi.

Kashishi: Hello. Thank you for inviting me today.

Interviewer: I hear that you are from India. Is it true that Indian curry is hotter than Japanese curry?

Kashishi: Yes, it is. Indian curry is very hot. At the school festival, I made Indian curry. I found it difficult to get the spices to cook it with. My curry is very popular with Japanese students.

Interviewer: Oh, I see. I wanted to try your curry. By the way, do you usually eat Japanese food?

Kashishi: Yes, I am. These days (最近) I gotten used to Japanese dishes. My mother's dishes may be too hot for me now.

Interviewer: What is your favorite Japanese food?

Kashishi: It is Tempura.

Interviewer: What's your favorite tempura?

Kashishi: It's shrimp.

STEP 2 Practice reading out your dialogue, putting feeling into it, and making eye contact.

<授業を振り返ろう>

- 教科書の内容の要約(会話という形で)ができた。

Class _____ Number _____ Name _____

7 実践内容（２）の検証と考察

ここでは、生徒が Lesson 4 の授業を受けた直後に行ったアンケートを基に、それぞれの活動について検証し、考察する。

（１）単語の意味を英語で言いかえたものを読み、理解することができたか。（図１）

この項目については、87 パーセントの生徒が「理解することができた。」と回答している。自由記述には、「単に日本語で意味を確認するより、おもしろい。」「新出単語以外の単語も覚えらる。」という回答があった。

（２）教科書の本文の内容を英語で言いかえたものを聞き、理解することができたか。（図２）

この項目では、本文の内容を簡単な英語で説明する活動(Oral Introduction)についての質問に、約 90 パーセントの生徒が「理解することができた。」と回答している。多くの生徒が、「英文だけを見ると分かりにくい、絵を使った説明は分かりやすい。」と回答した。

図 1

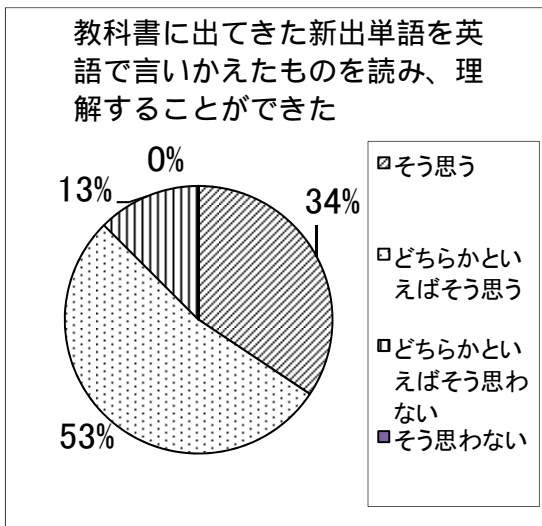
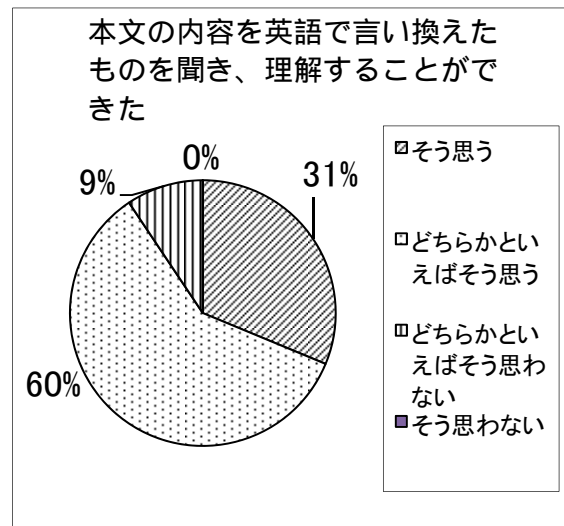


図 2



（３）教科書で学習した内容について、口頭で要約することができたか。（図３）

この項目では、本文の音読が終了した後に行うストーリーリプロダクションについて質問した。（１）（２）の２つの活動と比較するとやや難しい活動であったが、「要約できた。」と回答している生徒の割合は約 70 パーセントであった。自由記述では、生徒は「これで、教科書のほとんどの表現が頭に入って使えるようになった。」と述べており、活動は有効であった。

（４）教科書の話題について自分たちの意見や考えを話し合えたか。（図４）

この項目では、主に Part 1 で行ったディスカッションの活動について質問した。言語活動としては難易度の高い活動であるが、約 6 割の生徒が自分の考えを伝えることができたアンケートで回答していた。自由記述の回答は以下のとおりである。

- ・グループに分かれて活動したり、意見を出し合ったりするのが楽しかった。
- ・日本のことを英文にして説明するのが意外と大変だった。
- ・改めて日本のことをきちんと考えられたのでよかった。
- ・２つの意見を比べるのはおもしろいと思った。
- ・英文を考えるのが難しかったけど、楽しかった。
- ・考える力がつきそう。
- ・他の人たちの意見を聞くと、よく考えてあると思った。とても参考になった。

生徒は、単なる言語材料の練習ではなく、創造性や思考力を求められる課題に意欲的に取り組んでいることが分かる。そして、生徒同士がお互いに書いた英文を読み合い、新しい視点を発見することによって、物事を多角的に捉えることができるようになるのではないかと考える。

図 3

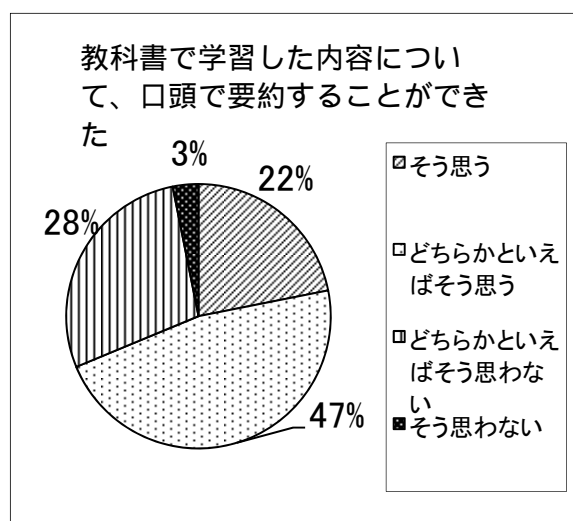
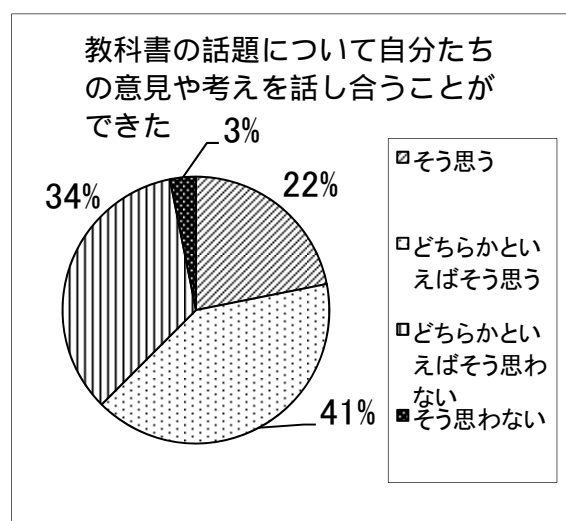


図 4



8 検証とまとめ

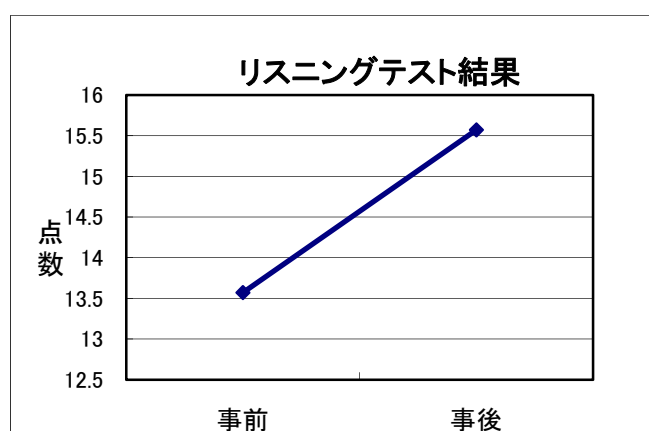
(1) 事後テストによる検証

10月中旬に事後テストを実施した。内容は、5月下旬に実施した事前テストと同様に、英検準2級程度のリスニングテストと、スピーキングテストである。二つのテストの点数やパフォーマンスの違いを比較した。

リスニングテスト

リスニングテストに関しては、事前テストと問題は同じものではないが、同程度のもので30点満点のテストである。図5は事前テストと事後テストの点数の伸びを比較したものである。事前テストの平均は、13.57点であったが、事後テストの平均は15.57点に上昇した。事前と事後の平均値に差があるかをt検定(統計)で検定したところ、両者には有意な差があった。そのため、リスニング力が向上したことが証明された($t(28)=3.00, p<.005$)。

図 5



スピーキングテスト

このテストは、生徒がALTと3分間自由に会話をするというものである。2名のスピーキングテストを例として、どのようにパフォーマンスが変化したかを検証した。方法としては、事前テ

ストと事後テストを録画し、その分析を基に検証した。結果としては、2名とも事前テストより事後テストの方が、積極的に会話を続けようとする姿勢が見られた。また、事前テストでは、生徒がALTに質問する→ALTが答える→生徒がALTにまた新たな質問をする→ALTが答える、というように、話題のつながりがなく、情報伝達が一方的な会話になっていたが、事後テストでは、生徒とALTが一つ的话题を深めながら会話をしていた。さらに、事前テストでは、ALTが言っていることを聞き取れず、質問の内容と全く違う返答をしてしまっている場面があったが、事後テストではそのような場面はなくなった。以下は、そのうちの1名の事前テストと事後テストの SCRIPT である。

ALT = T、生徒 = S 文法的な間違いもそのまま記載

—事前テスト—

S: What do you like sport?
T: What sport do I like? I love Soccer. I will play soccer on Saturday and Sunday this weekend in Nagano.
S: Oh, me too.
T: You too? In Nagano? You will play soccer on Saturday and Sunday?
S: I watching soccer.
T: You like watching soccer? Do you play soccer?
S: …(沈黙)
T: What sport do you play?
S: I play volleyball junior high school times.
T: OK, in junior high school you were playing volleyball. Do you play any sports?
S: No.
T: No? But you like watching soccer.
S: Yes. What kind of Japanese food do you like?
T: Oh, many kinds of Japanese food, but I think my favorite food are sushi and tempura.
S: Oh.
T: Do you like sushi and tempura?
S: Yes.
T: What's your favorite?
S: Sushi is salmon and also maguro.
T: Tuna? Great. Very delicious. What's your favorite tempura?
S: Kakiage.
T: Maybe I think that is… I forgot the English name.
S: Many vegetable.
T: I know. Me too. I like vegetables.
S: Have you ever been to Tokyo Disney Land?
T: No, I've never been to any Disney resorts.
S: Oh.
T: I want to go. My friends tell me you should go to Tokyo Disney, you should go to Tokyo Disney Sea.

—事後テスト—

S: What did you do last weekend?
T: Last weekend? I took a test.

S: Test?

T: Yes. I want to go to Law school, so I had an entrance exam in Tokyo, so I'm very sleepy. What did you do last weekend?

S: I went to high school festival.

T: Really? Did you have fun?

S: Yes.

T: What did you do?

S: I went to go with my friends. I went with my junior school friends.

T: How many friends?

S: Ten, more than.

T: More than ten?

S: Yes.

T: Lots of friends. What school did you go to?

S: Sakushin Gakuin.

T: OK, and did you have a good time?

S: Yes.

T: So, what are you doing this weekend?

S: I will study exam.

T: You have exams?

S: Yes.

T: What is your favorite subject?

S: I like English, but I don't like math.

T: So you have to study math for your test?

S: Yes.

T: I understand.

S: (話題を変える) I will play, I will form a band with my friends.

T: Really? What will you play? What instrument?

S: I play the drum.

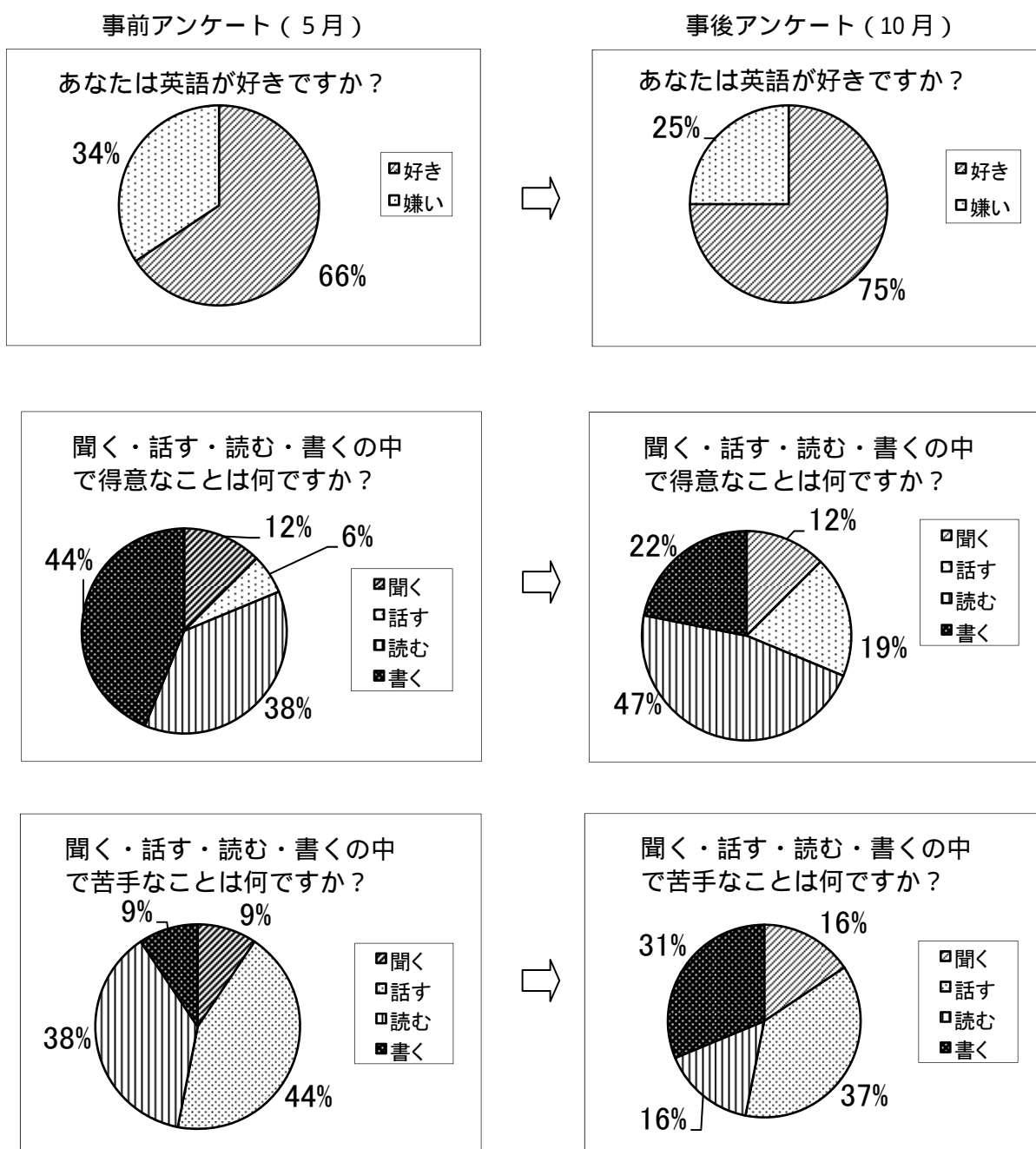
T: Drums! Very cool. What kind of music do you play?

S: Many, but J-pops and jazz.

(2) アンケートによる検証

5月下旬に実施したアンケートと10月中旬のアンケートを比較した。図6の左が事前アンケート、右が事後アンケートの結果である。英語が好き、という生徒は10%増加した。そして、英語の4技能の中で好きな技能として、「話すこと」が増加した。これは、授業の中で自分が言いたいことを伝える、という活動を少しずつ取り入れたことによるものではないかと考えられる。しかし、依然として英語を話すことに苦手意識を感じている生徒はいる。今後、「話すこと」に対する苦手意識を払拭するための指導の工夫改善が課題である。

< 図 6 >



（３）まとめ

コミュニケーション能力の育成という観点から、約半年間にわたって、英語の教科書の１つのレッスンの展開方法について研究してきた。ねらいは、「英語を用いた授業展開を心がけること、生徒が自ら考え、創造力を引き出すコミュニケーション活動を行うこと、ペアワーク、グループワークを取り入れる」ことである。事後アンケートからも分かるとおり、生徒は英語を話すことにまだ苦手意識をもっているなど課題も多いが、生徒の英語学習に取り組む姿勢は確実に変化しつつある。

高校の英語の授業は、教科書に書かれている英文の意味をただ理解させて終了してしまうことが多いが、それではコミュニケーション能力は養えない。今後は、内容理解にとどまらず、生徒が考え、あらゆる場面で英語を使う活動を授業に取り入れていきたい。

自己表現力を高めるための段階的指導の工夫 —コミュニケーション能力を高めるためのライティングの指導法—

1 課題設定の理由

平成 25 年度より、新学習指導要領による教育課程が学年進行で実施される。現行の学習指導要領で、「書くこと」を中心に指導している科目「ライティング」はなくなり、新たに「英語表現」「英語表現」が設けられる。英語表現の目標は次のとおりである。

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

「論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力」とは、文章の構成を考え、話したり書いたりして、相手に伝える能力を意味する。事実や意見などを相手に伝えるためには、まず、自分自身が何を伝えたいのかを明確にしておく必要がある。さらに、伝えようとする事実や意見などを相手に分かりやすくするために、必要に応じて、内容を時系列にまとめたり、重要度の高いものから配列して話したり書いたりすることもある。他にも、原因を述べた後に結果を述べたり、問題を提起した後にその解決策を述べたりするなどの論理の展開や表現の方法が考えられる。自分が伝えようとすることを明確に理解し、論理的に話したり書いたりすることができる力を育成することが大切になる。さらに、「コミュニケーション英語」に準じ、「生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、言語活動を英語で行う」と明記されている。

現在の「ライティング」の実際の指導では、和文英訳や文法重視の傾向が強く、コミュニケーション能力を育成するための言語活動を行う機会は少ない。そこで、授業は英語でコミュニケーションを図る場であるという認識のもとに、生徒の自己表現力を高める指導を段階的に行い、問題点やその解決法・改善法などを検証し、「ライティング」の指導における自己表現力を育成するため効果的な指導法について研究していくこととした。

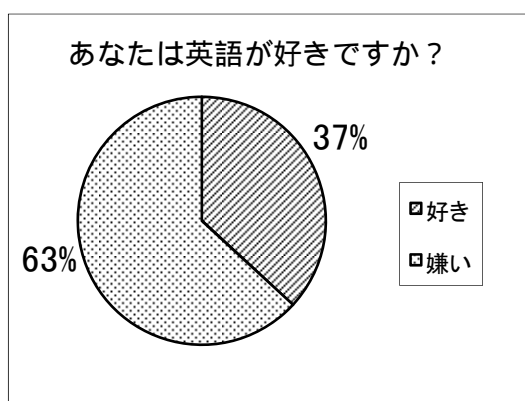
2 生徒の実態

(1) 事前アンケート

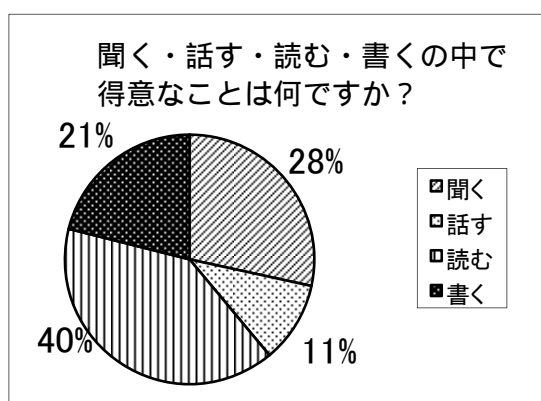
研究対象となる第 2 学年の生徒 95 名を対象にアンケートを実施した。アンケートの内容、及び結果に関しては以下のとおりである。(資料 1)

< 資料 1 >

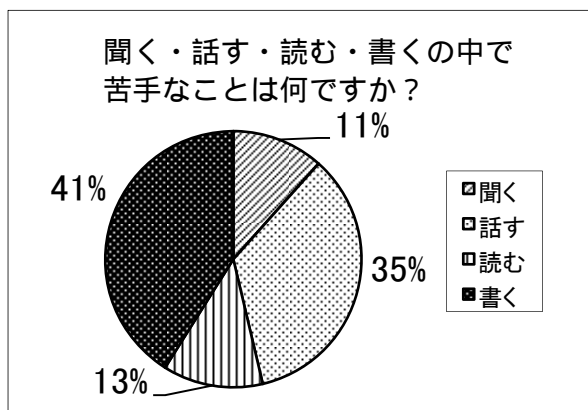
問 1



問 2



問 3



問 4 英語を「話す」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・外国人と会話がしたい。
- ・ある程度日常会話ができるようになりたい。（多いものを抜粋）

問 5 英語を「聞く」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・英語で話されている内容が 1 回で正確に聞き取れるようになりたい。
- ・外国人が話していることをある程度聞き取れるようになりたい。
- ・洋楽を聞き取れたり、洋画を字幕なしで理解できたりしたい。
- ・受験のリスニング問題で困らないくらい聞き取れるようになりたい。（多いものを抜粋）

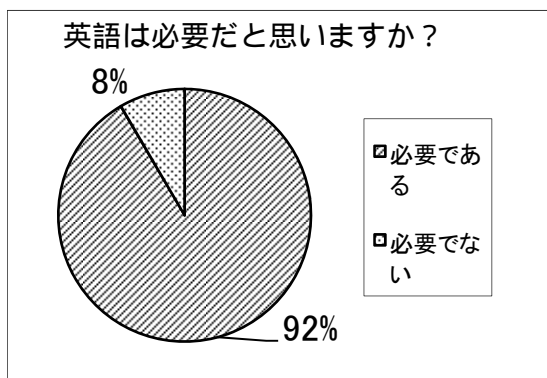
問 6 英語を「読む」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・英字新聞を読んだり、物語を読んだりしたい。
- ・教科書の本文がすらすらと読めるようになりたい。
- ・長文問題がすらすらと読めるようになりたい。（多いものを抜粋）

問 7 英語を「書く」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・英語で手紙やメールを書けるくらいになりたい。
- ・自分の考えを英語で書けるようになりたい。
- ・授業やテストで困らないくらいにすらすら書けるようになりたい。
- ・書くことはあまり必要ない。（多いものを抜粋）

問 8



[必要であると思う主な理由]

- ・今後外国と関わるが増えると思うから。
- ・外国の人とコミュニケーションをとれるから。
- ・世界で最も多く使われている言語だから。
- ・将来、大学入試や仕事で必要になると思うから。

[必要でないと思う主な理由]

- ・身近で使っている人がいないから。
- ・必要な人だけが学ばばよいと思うから。

英語を「読むこと」が得意であると答えている生徒が多いのは、教科書の本文を和訳しながら読み、内容を理解するという授業形態が多いためではないかと考えられる。英語を「書くこと」に関しては、多くの生徒が苦手意識をもっている。これまでの英語学習や授業において、「書く」活動が少なかったことが、生徒の「書くこと」に対しての苦手意識をさらに強くしているものと考えられる。全体的には、4技能の中でも「読む」「聞く」というインプットを得意と感じ、「話す」「書く」というアウトプットが苦手であると感じている傾向が顕著であった。

(2) 事前アンケートに基づく仮説

アンケートの結果を基にこれまでの授業形態を再考し、以下の仮説を立てた。

仮説1 ライティングの授業の中で、「書くこと」に重点を置いた活動(QUICK WRITE)を段階的に取り入れることで、生徒は苦手意識を克服し、「書く」活動に対して意欲的に取り組むようになる。

仮説2 教科書の中の重要表現を明確に示し、それらを活用して自分の考えや意見を書いたり話したりする活動を取り入れることで、自信をもって英語でのアウトプットができるようになる。

(3) 到達目標と目指す授業の流れ

これまでのライティングの指導形態は、文法を説明した後に日本語を英訳させ、それを板書させて添削するという指導形態が多かった。しかし、アンケートの結果から、英語での自己表現力を育成することが課題であることが分かった。そのため、次のことを到達目標として、段階的に指導することとした。

教科書の学習内容に基づいて、自分の考えを英語で表現し、さらにそれらを実際に使用する活動を行うことで、積極的に英語でアウトプットをする。

具体的には、指導段階を4つに分け、それを指導段階1・2と指導段階3・4に分けて、それぞれの到達目標を設定した。

また、できるだけ英語を用いて授業を実践することを心がけ、基本的には次のような流れで指導を行うこととした。

新しい学習事項(文法など)を提示する。

↓

練習問題を解きながら新しい学習事項の定着を図る。

↓

定着した学習事項を活用するために、コミュニケーション活動をする。

これまでも指導してきた、「書くこと」に重点を置いた QUICK WRITE という活動をこの流れの中で継続して実施し、その内容を工夫改善しながら研究を進める。

3 本研究の流れ

本研究は以下の流れで実施した。

5月下旬 事前アンケートを実施する。

↓

6月・7月 QUICK WRITE を実施する。

↓

9月	QUICK WRITE	を実施する。
	↓	
10月	QUICK WRITE	を実施する。
	↓	
11月	事後アンケートを実施し、研究の考察をする。	

4 実践内容

ライティングの教科書（UNICORN ENGLISH WRITING、文英堂）を使用して授業を展開する。

指導段階	指導内容
1	英作文の練習問題で、適語補充形式で英作文させる。 書いた文を各自で音読させる。 重要表現を用いて、自分の考えを英語で書かせる。（QUICK WRITE）
2	段階1のと同様の活動をさせる。 ペアワークで書いた文を音読させる。 重要表現を用いて、自分の考えを書かせる。（QUICK WRITE） で書かせた英文の内容に関して、教師と英問英答をする。 英問英答の内容を書かせる。
3	テーマとその関連語を与え、英作文を書かせる。（QUICK WRITE） で書かせた英作文の内容に関して、教師と英問英答する。 英問英答の内容を書かせる。
4	テーマを与え、マッピングをさせる。 マッピングで挙げられた語に関して、英問英答をする。 英問英答の内容を参考にして、英作文をさせる。（QUICK WRITE） で書いた英作文の内容に関して生徒同士で、英問英答をさせる。

（1）指導段階1および指導段階2 QUICK WRITE の実施

本事例を実践した学校では、以前から、授業の最初の5分間で、与えられたテーマに関して英作文を書く QUICK WRITE という活動を、「ライティング」の指導の一つとして継続的に実施してきた。指導段階1と指導段階2では、この QUICK WRITE を改善し、教科書の内容を学習した後に、その学習事項を使って自分の考えをできるだけ英語で書くという活動を実施した。

現在使用している教科書には、以下のような指導手順が示されている。

- 1 文法項目や構文を学習し、それに関する模範的例文を提示する。
- 2 ドリル形式のような形で基本的な英文を練習する。

この手順に従って、これまでは日本語での文法事項などの説明→問題演習→解答解説という流れの授業を行ってきた。しかし、本実践では、生徒の自己表現力を育成することに重点を置いて指導するために、補助教材としてワークシートを使用した。

指導段階1、指導段階2の到達目標

- ポイントになっている重要表現を理解することができる。
- 自分で書いた英作文をしっかりと音読することができる。
- 学習した表現を用いて、自分の考えを書いたり、話したりすることができる。

指導目標

英語で適切な指示・助言をして、重要表現を明確にする。

正答を確認した後に音読やペアワークで学習事項の定着を図る際、発音やイントネーションなど、発話の正確性に留意させる。

英作文を書く際には、できるだけ生徒が英語を積極的に書くように、必要な語彙や文法事項などを、生徒一人一人の実情に合わせて指導・助言をする。

生徒が書いた英作文が生かされるように、英問英答の内容は十分な配慮をする。

(ア) 指導手順

ワークシートを作成する際は、次の二点に留意した。

英語で全文を書かせるのではなく、重要表現がどの部分なのか、どのように文中で使用するのかを生徒が理解しやすいように、()を用いた空所補充の形式で英作文を書かせる。英文の下にスペースを作り、日本語訳を書いたり、必要に応じて下線を引いたりできるようにする。

指導段階 1 及び指導段階 2 での指導の手順は、次のとおりである。b)までは共通である。

a) ワークシート(資料 1)の英文の空欄になっている部分に、教科書の例文等を参考にして、適切な語を入れさせる。

b) 重要表現を確認しながら、正答を板書で確認する。

c) ・各自で何度も文を音読させる。＜指導段階 1＞

・各自で何度も文を音読した後、ペアワークをさせる。その際、一人が日本語を言い、もう一人が英語を言う。役割を変えながら、何度も練習し、暗唱させる。＜指導段階 2＞

d) ・学んだ重要表現を用いて、自分の考えなど伝えたいことを英語で書かせる。(QUICK WRITE)
＜指導段階 1＞

・＜指導段階 1＞と同様に書かせた (QUICK WRITE) 後、その内容に関して、何人かの生徒に教師が英語で質問し、英語で答えさせる。他の生徒はそのやりとりを聞いて、その生徒が伝えたかったことは何かを英語で書かせる。生徒の発言をそのままディクテーションしても、自分なりに解釈して書いてもよいとした。資料 2 は生徒が書いた英文と、それを基にした生徒と ALT との会話である。＜指導段階 2＞

＜資料 1＞

Strategies 5	Class	No	NAME
A			
1 例) 彼は戸口で待っているに違いありません。 He (must) (be) (waiting) at the door.			
2 そのニュースは真実であるはずがありません The news (can) (not) be true.			
3 午後には雨が降るかもしれません (It) (may) (rain) in the afternoon.			
B			
1 彼はいま事務所にいるはずがありません a. He (can't) (be) at his office now. そのとき彼が事務所にいたはずがありません b. He (couldn't) (have) (been) at his office (then).			
2 彼女は金持ちかもしれません a. She (may) (be) a rich woman. 彼女は金持ちだったかもしれません b. She (may) (have) (been) a rich woman			
3 彼らは昼までに空港に着かなければなりません a. They (must) (arrive) at the airport by noon. 彼らは今までは空港に着いているにちがいありません b. They (must) (have) (arrived) at the airport by now.			
C			
1 ひとつお願いがあるのですが。 (May) I (ask) you a favor? 同意			
2 駅までの道を教えていただけませんか。 (Could) (you) (tell) (me) the way to the station?			
3 彼女に伝言をお願いしますか。 (May) I (leave) a message for her?			



活動の様子

ワークシートで学習したあと、正解を確認するために板書をしているところ。



活動の様子

例文を各自で何度も音読した後、ペアワークで例文を覚えているところ。



活動の様子

ペアワークをした後、各自で英作文を書き、それに関してALTと英問英答をしているところ。

< 資料 2 >

A=ALT S= Student

A: You must finish English homework, right?

S: I must finish Math homework.

A: So, did you study Math hard last night?

S: Yes, I did.

A: Do you forget to bring it?

S: Yes. It is shocking!

A: That's too bad.

S: I must have left my homework at home.

QUICK WRITE

I must finish my homework by today.

Last night I studied hard.

I couldn't find my homework in my bag this morning.

I must have left my homework at my home.

It's shocking!

(イ) 指導段階 1・指導段階 2 の考察

実施後のアンケート結果（資料 3）からも分かるように、日本語での文法説明と和文英訳に偏りがちな従来の授業と比較すると、ワークシートを用いての授業形態については 95% の生徒が分かりやすいと回答した。重要表現を用いて自分の考えを英語で表現させる QUICK WRITE では、自主的に書こうとする姿勢が見られ、また、単文の羅列が多いものの以前より書く分量が多くなった。英文を書いて終わりではなく、それらを音読したり、ペアワークを用いたりするなどの活動を取り入れることで、書くことに対する生徒の意欲や関心を高めることができたのではないと思われる。QUICK WRITE で生徒が書いた英文の量が増えるにつれて、ペアワークにも主体的に取り組んだり、積極的に音読活動に取り組んだりするようになった。互いに教え合い学び合うことによる効果の表れと言える。

要点や手順の説明に関しては、最初は英語だけを使用したため、分かりにくいという生徒が多くなったり、説明を何度も繰り返すため時間がかかったりしてしまった。そこで、生徒の理解度に応じて、日本語での説明を加えたり、やさしい英語を使用したりするようにした。生徒とのやりとりの中で、教師が状況に応じて英語と日本語のバランスを考えていくことが今後の課題である。まずは、教員が自ら英語を使用する姿勢を示すことで、生徒の「聞くこと」への意欲を高め、相手の伝えたいことを理解しようとする姿勢を育成できるのではないかとと思われる。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

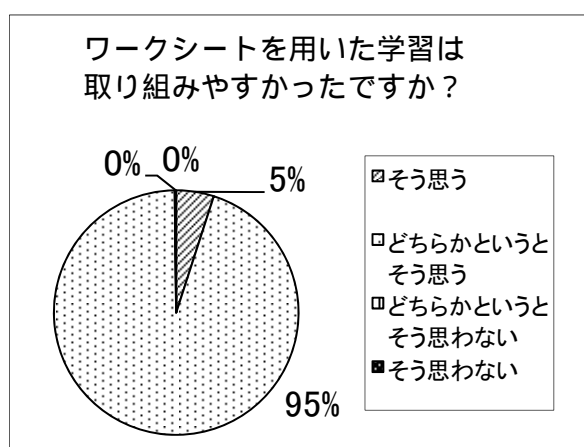
到達目標：単元のポイントとなっている重要な表現などを空所にすることで、明確に示すことができ、生徒は重要表現を意識しながら英文を書くことができた。

到達目標：文中の重要表現の意味や文中での使用方法を正確に理解し、それらに留意しながら音読することができた。

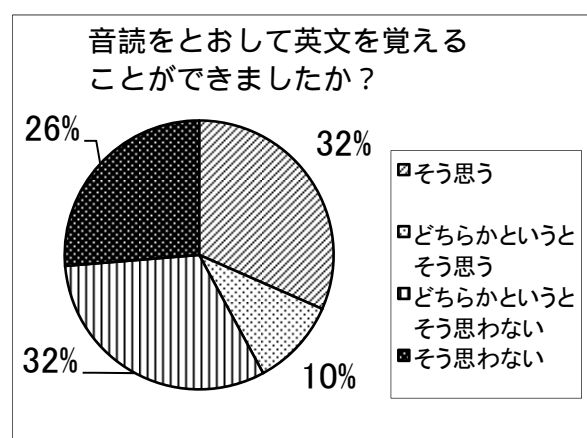
到達目標：学習した表現を用いて、自分の考えを書くことは徐々にできるようになってきた。しかし、自分が書いたことを相手に伝えることにはまだ抵抗がある生徒も多い。情報伝達の手段の一つである「話して相手に伝える」ということをさらに指導したい。

<資料3> 段階1、段階2の指導後のアンケート結果（4クラスで実施：実施人数95人）

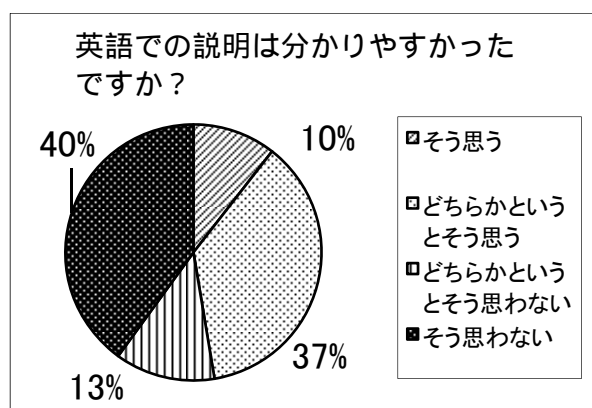
問1



問2



問3



(2) 指導段階3および指導段階4 QUICK WRITE ・ の実施

指導段階1と指導段階2では、学んだ表現を用いて自分のことを英語で表現する指導を行った。しかし、重要表現を意識しすぎるあまり、一文一文が単独の文になってしまい、文と文のつながりを意識した英文を書かせることができなかった。英語で文を書くことにある程度抵抗感が少なくなってきたため、QUICK WRITE を発展させ、文のつながりを意識したパラグラフライティングの指導を行うことにした。ただし、パラグラフライティングをさせるには段階的な指導が必要になる。そこで、二つの段階(段階3、段階4)を設定し、それぞれの段階で QUICK WRITE ・ を実施することにした。また、書いた内容を相手に話して伝えることの指導がまだ十分でなかったため、英問英答を工夫したり、相手が伝えなかったことを聞きとって書くことを指導したりした。教科書での学習内容の定着を目指すための活動であるため、重要表現などを適切に用いた英作文をさせることにも留意した。

段階3、段階4の到達目標

文のつながりを意識し、教科書で学んだ重要表現を用いて正しい英文を書くことができる。

学んだ表現などを用いながら、与えられたテーマに関して、自分の考えを整理し、文章を組み立て、書くことができる。

自分で書いた英作文の内容を基に、教師や友人と英語で会話ができる。

指導目標

生徒の意識が、「一文を書く」ことから「段落を書く」ことに自然に変わっていくような指導を心がける。

自分の意見や考えを伝える文章を書く指導をするため、題材は生徒にとって身近なものにする。

英文を書く際は、生徒ができるだけ英語を積極的に書くように、必要な語彙や文法事項などについては、各生徒の実情に合わせて指導・助言をする。

生徒が自発的に書いた文章をできるだけ生かすような質問をするように配慮する。

(ア) 指導手順 段階3、段階4と段階を踏んで指導をした。

指導段階3 QUICK WRITE の指導手順

- ワークシート(資料4)を配布し、テーマを与えた後、クラス全体で関連する語を考える。
- それらの単語の中の必要なものを用いて、5分程度でそのテーマに関して、自分の意見などを英語で書かせる。
- b)で書いた英作文の内容について、教師と生徒で英問英答をする。毎時数人の生徒を順番に選ぶ。
- 他の生徒にはそのやりとりを聞かせて、その生徒が伝えなかったことは何かを英語で書かせる。
- どれだけ書くことができたかを生徒に認識させるため、ワークシートに(words)という欄を作り、語彙数を記入させる。自己評価はA～Eの5段階評価と、文章での評価にする。

関連する語を生徒にあげさせ、事前に指導することで、辞書を引く時間が減り、英文を書く時間を長くとることができた。生徒と教師が英問英答をする際は、その生徒が伝えたい情報を他の生徒が理解しやすいように留意して質問した。どのようなやりとりが行われたかを資料5にまとめた。また、やりとりを聞いた生徒になるべく多くの英文を書かせるために、生徒の発言をそのままディクテーションしても、自分なりに解釈して書いてもよいこととした。

関連する語をクラス全体で共有したので、どの生徒も英文を書くために必要な語彙が備わり、スムーズに英文を書き始めていた。しかし、使用する語彙が同じになってしまったため、生徒の創造性を引き出すことができず、完成した英文はみな同じような内容になってしまった。また、英問英答は数名の生徒と教師のやりとりであったため、全体的には生徒の英語の発話量が減ってしまった。この問題点を解決するために QUICK WRITE を改善し、QUICK WRITE を実施した。

< 資料 4 >

Lesson
Model sentence (the sentence which we learned in the last lesson)
will, can, may, must, should...

Theme: Fall

Associated Words (As many words as possible)

○ hiking	○ forest
○ mountain	○ bear
leaves	○ salmon
tree	○ fall
disposal chopsticks	
wood	

(10 Words)

I will go hiking with my family in this fall.

Because I want to see a lot of bears and salmon.

I think that if I go to a mountain, I should take a picture in the forest.

I want to eat box lunch there.

So I will help my mother to cook lunch. (A)

I want to go hiking at Silver week.

Supplementary Sentences

I may go on a hike in fall.

For I want to see many beautiful scenaries in the forest.

(61 Words)

Self-evaluation					コメント たべたての山で食べたい。 文に書いてない。
S	A	(B)	C	D	

< 資料 5 > テーマは「Fall」、授業で扱った重要表現は助動詞である。

T=Teacher S=Student

T: What will you do this fall?
S: I will go hiking with my family in this fall.
T: Where do you want to go?
S: I want to go to a mountain in Nikko. I like beautiful scenery, so I want to take many pictures, for example fallen leaves.
T: Oh, I like beautiful scenery too. Anything else?
S: In Fall, there are many delicious foods, for example... yakiimo.
T: You like a sweet baked potato?
S: Yes...Yes... I like a sweet baked potato. I may eat it every day.
T: Don't eat too much, please.
S: If I eat too much, I should do exercise.
T: I think so too.

指導段階 4 QUICK WRITE の指導手順

a) ワークシート(資料6)を配布する。一つのテーマからいろいろな発想ができるように、

テーマを Associated words の中心に書かせる。そこから生徒たちにマッピングをさせる。
(資料 7)

- b) 数人の生徒がマッピングしたものを例として選ぶ。書かれた単語を基に、教師が英語で質問をする(資料 8)。質問を聞いたり、質問に答えたりさせることで、マッピングした単語を用いてどのような英文が作れるかを考えさせる。質問に答えさせるのは、それを書いた生徒だけでなく、ランダムに指名する。
- c) b)でのやりとりを参考にして、自分が書いた単語を用いて 5 分程度で自分の意見などを書かせる。(資料 9)
- d) c)で書いた英作文の内容について、グループまたはペアの形式で、生徒同士で英問英答をさせる。(資料 10)
- e) どれだけ書くことができたかを生徒に認識させるため、ワークシートに(words)という欄を作り、語彙数を記入させる。自己評価は A ~ E の 5 段階評価と、文章での評価<資料 6 >

QUICK WRITE では、マッピングの形で、自由に発想を広げさせた。生徒は、テーマからイメージして単語をどんどん広げていくので、生徒の創造性や独自性を引き出すことができる。しかし、単語の数が増えると、それらを文中でどのように使用すればよいのか迷ってしまい、英文が書けない心配がある。そこで、数人の生徒のマッピングを例にとり、そこであげられている単語について教師が質問をした。その際、生徒が質問を聞いたり、質問に答えたりすることで、文中で単語をどのように使用すればよいかが理解できるような発問をした。教師と生徒のやりとりが英文を書く際のヒントになるため、生徒たちに注意して聞くように指導した。英作文の後、生徒同士で英問英答をすることを伝え、自分の考えを整理して書くことに留意させた。また、書いた内容に対する生徒同士のやりとりでは、一方的な情報伝達にならないように、相手の発話内容を正確に理解したり、それに対しての意見を述べたりするように指導した。

Quick Write			
Date	Class	No.	Name
October 28			
Lesson			
Model sentence (the sentence which we learned in the last lesson) or Grammar			
I went to Shin-Kyogoku to buy some souvenirs to my friends.			
Associated Words (As many words as possible)			
the atomic bomb Dome Hiroshima Osaka U.S.J Suzumashi - temple Kyoto - Kiyomizu temple Heian shiten Theme: School Trip			
(8 Words)			
I went to Kiyomizu temple at my free day in the school trip.			
I took a taxi to Kiyomizu no-butsu.			
It was very beautiful.			
I paid homage at a shrine there very hard.			
I went to the U.S.J in Osaka.			
I rode many rides.			
(4 Words)			
Self-evaluation		コメント	
S	A	B	D
物言が、書くことができた。 単語を思い浮かべるとき、文を書くときに考えることができた。			

< 資料 7 > スポーツをテーマにしたマッピング

Associated Words (As many words as possible)	
everyday hard win lose	practice tired game fun health diet
club tennis teamwork friends teammate	
Theme: sports	
(Words)	

< 資料 8 > (資料 7) を基にした教師と生徒とのやりとり (間違った表現もそのまま記述)

T=Teacher S1=Student 1 S2= Student 2 S3=Student 3 S4= Student 4

T : Do you like playing sports?
 S1 : Yes, I like sports.
 T : Do you belong to any club?
 S1 : Yes, I belong to tennis club. It's a lot of fun.
 T : OK, playing tennis is a lot of fun for S1. How about you, S2?
 S2 : I play soccer every day.
 T : Why do you practice hard every day? To win the game?
 S2 : I practice soccer to win the game. I want to be good soccer player.
 T : Do you think it important to win the game?
 S2 : Yes, I do. But teammates is also important.
 T : I think it important to play sports with your teammates, because they encourage you to try again when you fail. How do you think, S3?
 S3 : I game baseball last Sunday. I lose ... lost. But we ...先生、「励ます」みたいなのをさっき出てきたと思うんですけど、もう一回言ってください。
 T : It's "encourage."
 S3 : Thank you. But we encourage each other and we practice hard to win next game.
 T : You had a baseball game last Sunday, but you lost it. It's a pity, but you go on practicing hard with your teammates. I hope you will win the next game. By the way, I jog every morning to be in good health. S4, I saw you running this morning.
 S4 : Yes! I ran this morning in order not to be late for school!
 T : OK.... Anyway, to play sports is fun and good for our health. I think sports give us a lot of important things. Do you think so too?

< 資料 9 > (資料 8) のやりとりの後に生徒が書いた英作文

I belong to tennis club. I practice hard every day. Sometime I want to give up. But my teammates always encourage me to try again. So, they my treasure, I want to practicing tennis with them to win the game.

(40 Words)

Self-evaluation					コメント 今日はよく書けた。早く部活に行きたかった。
S	A	B	C	D	

<資料 10> (資料 6) の英作文を基にした、生徒同士のやりとり。テーマは「SCHOOL TRIP」である。

S1=Student 1 S2= Student 2

S1: Where did you go last week?

S2: I went to Kyoto to visit temples.

S1: What temple did you enjoy most?

S2: I enjoyed Kiyomizu-temple.

S1: What did you do in Kiyomizu-temple?

S2: I bought Omamori.....

ここで Student 1 は教員に“What do we say Omamori in English?”と質問をした。

S1: You bought a lucky charm?

S2: Yes...Yes...I bought a lucky charm.

S1: Why did you buy a lucky charm?

S2: Because it makes me happy.

S1: Oh, I see.

(イ) 指導段階 3・指導段階 4 の考察

指導段階 3 として、クラス全体でテーマの関連語を共有してから、英文を書かせることにした。生徒が関連語をイメージしやすいように、テーマは身近なものにした。英作文の前に関連語を自分で調べる時間を与え、ワークシートにそれを書き入れる欄を作った。あらかじめ“WORD BOX”のようなもので教員が示してしまったときもあった。しかし、生徒が単語を出し合った方がその後の英作文への取組が意欲的であると感じたため、時間がかかっても生徒同士で関連語を共有させることとした。回数を重ねるごとに、語彙力のある生徒や発想力のある生徒が積極的に発言するようになり、関連語が多く出てくるようになった。

また、書いたことを口頭で伝えさせるため、教師が数人の生徒と英語でやりとりをする活動を取り入れた。その際、教師が質問の仕方や内容を考慮しないと、生徒が自分の書いた文章をただ読むだけになってしまうので、いかに生徒の発話を促す質問をするかが重要であった。

さらに、聞いた情報を自分なりに整理し、相手が伝えたかったことを英語で表現するという活動を入れた。これは、ただ聞くのではなく、要点を捉えて正確に情報を把握することに留意させたいと考えたからだ。最初は相手が発話したことをただディクテーションする生徒が多かったが、徐々にディクテーションの分量が減り、自分なりに整理した情報を英語で表現できるようになってきた。

指導段階 4 では、英文を書く前に、マッピングとそれに関する教師と生徒の英問英答を取り入れた。テーマは、この段階でも身近なものにした。マッピングによって、生徒が自分の連想する単語をどんどん広げていき、書く英文量が増え、内容が充実するのではないかと考えたためである。また、これまでは英問英答は書いた文章に対して行ってきたが、本事例では、自分が知っている単語をなるべくたくさん用いて、自分が伝えたいことを書かせるために、書く前にも英問英答を行った。数人の生徒がマッピングしたものをモデルとして板書したが、その生徒だけが答えるのではなく、クラス全体に向けて発問し、全員に答えを考えさせた。答えが作文を書く際のヒントになるような質問をしたため、生徒は集中してやりとりを聞いていた。生徒が書いた英文は、文の数も多く、文のつながりも意識されているものが多かった。書いたものに対しては、教師と生徒ではなく、生徒同士で英語のやりとりをする活動へとレベルアップしたが、段階的に指導してきたこともあり、活発なやりとりができていくペアが多かった。生徒が書いたものを活用する

コミュニケーション活動を取り入れたことで、生徒が書く文章は、単文からまとまりのある文へと変わっていった。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

到達目標：文のつながりを意識して文章を書ける生徒が増えた。今後は文法的に、より正確な文を書けるように指導していきたい。

到達目標：多くの生徒が、与えられたテーマに関して、自分の考えを整理し、文章を組み立て、伝えたいことを明確にした文章を書くことができるようになってきた。

到達目標：会話をどのように定義するかという問題はあるものの、何とか英語でのやりとりが成立していたため、おおむね達成できた。

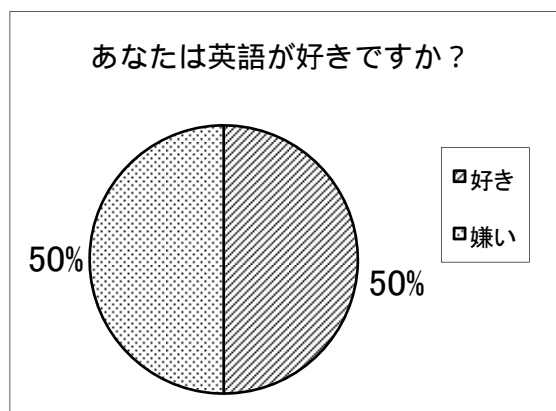
5 検証とまとめ

(1) 事後アンケートによる検証

これまでの実践を検証するために、研究対象となった第2学年の生徒95名を対象に、事前アンケートと同じ内容のアンケートを行った。結果に関しては以下のとおりである。(資料11)

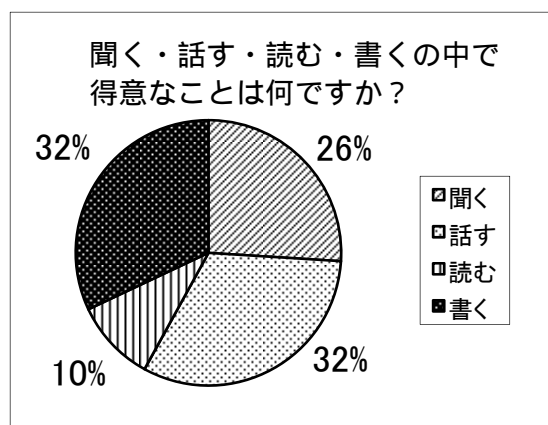
<資料11>

問1



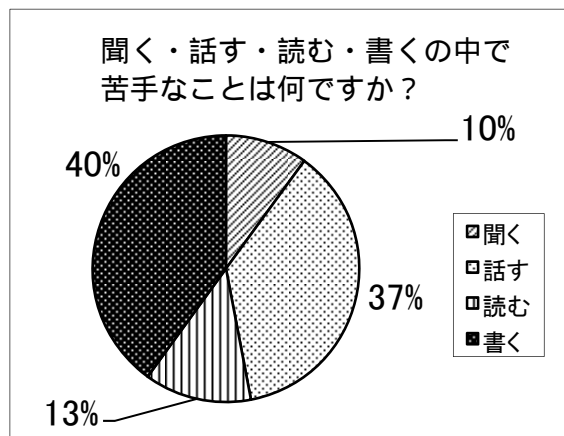
好きという回答が10%以上増加した。

問2



全体的な傾向には大きな変化はないが、活動が増えたことにより、「聞く」と「書く」が微増した。

問3



全体的には顕著な変化はないが、「話す」ことに苦手意識をもつ生徒が微増した。しかし「書いたことが自分で思うように伝えられないから。」という理由を挙げた生徒が最も多かった。

問4 英語を「話す」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・自分の伝えたいことをきちんと伝えられるようになりたい。
- ・ある程度日常会話ができるようになりたい。

(多いものを抜粋)

問5 英語を「聞く」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・相手が伝えたいことをきちんと聞き取れるようになりたい。
- ・英語で話されている内容が1回で正確に聞き取れるようになりたい。
- ・受験のリスニング問題で困らないくらい聞き取れるようになりたい。（多いものを抜粋）

問6 英語を「読む」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・英字新聞を読んだり、物語を読んだりしたい。
- ・教科書の本文がすらすらと読めるようになりたい。
- ・長文問題がすらすらと読めるようになりたい。（多いものを抜粋）

問7 英語を「書く」ことに関してどのようなことができるようになりたいですか。

- ・自分の考えをたくさんの英語で書けるようになりたい。
- ・テーマに沿った自分の意見をもっと英語で書けるようになりたい。
- ・授業やテストで困らないくらいにすらすら書けるようになりたい。（多いものを抜粋）

英語が好きと回答した生徒が10%以上増加したこと、「英語を書く」ということに関して若干であっても数値が上がったこと、「話す」を苦手と感じた生徒の多くが、「何度やっても自分で書いたことを思うように相手に伝えられない」という理由を挙げていたことは、生徒がこの半年間「ライティング」の授業に自発的に取り組んできた成果だろうと考えている。事前アンケートの自由記述では、「外国人と話をしたい。」という意見が多かったが、事後アンケートでは、「自分の意見をたくさんの英語で書けるようになりたい。」「相手が伝えたいことをきちんと聞き取れるようになりたい。」などの意見が多かった。コミュニケーション活動を取り入れた授業実践を通して、自分のことを伝えたいという思いや、相手のことを理解したいという気持ちが強くなってきたと言える。

（2）まとめ

生徒のアウトプットの機会を増やすために、「英語を書く」ことを授業の中心の活動としながらも、それを基に生徒同士のコミュニケーション活動を行い、自己表現力を身に付ける指導を実践した。段階的な指導を行ったが、その過程で、生徒たちは、文法事項や、単語などの知識的な面の不十分さを実感したり、思うように英語で発話できないもどかしさを感じたりしていた。しかし、最終的には、スムーズとは言い切れないが、生徒同士での英語でのやりとりが成立するようになった。生徒の中に、教科書で学習する表現を身に付ければ自分の意見を英語で書くことができる、英語で文章が書けるとそれを基に英語で自分の考えを伝えることができる、という意識が出てきたことは明らかである。音読をしたり、英語でペアワークをしたりするなど、実際に英語で発話してみることが、既習事項の定着につながることを生徒は理解できたようである。

教師が英語で授業を行うことは、生徒にとっては思ったより受け入れ易いようである。教師の発話する英語は、効果的なインプットの手段であり、生徒の自発的なアウトプットを促すモデルである。日本語と英語を効果的に使い分けことが、教師として今後求められることである。

今後は、いかに生徒の知識の定着を図るとともに、理解を深める活動を工夫していくかということが課題である。指導法を工夫し、段階的に指導することで、「英語を書く力」や「自己表現力」が身に付けられる。引き続き「ライティング」の授業において生徒の英語運用能力の伸長を目指した指導をしていきたいと考えている。

自己表現力を高めるための段階的指導の工夫 —コミュニケーション能力を高めるための英語 の指導法—

1 課題設定の理由

現行の学習指導要領における英語 の目標は次のとおりである。

幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

しかし、これまでの英語 の指導では、訳読や文法説明に偏りがちであり、生徒が英語を発話する機会や、生徒のコミュニケーション力を育む言語活動を行う機会が少ない傾向にあった。そのため、英語 の授業は、すなわち和訳の授業であるにとらえる生徒も多いのではないかと懸念がある。

平成25年度より実施される新学習指導要領では、新しく「コミュニケーション英語 」という科目が設けられる。その目標は次のように示されている。

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

ポイントは、的確に理解し適切に伝える能力と、英語を通じてコミュニケーション能力を伸ばしていくことである。内容としては、生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることができるように具体的な言語の使用場面を設定して、次のア～エのような言語活動を英語で行うとしている。

- ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。
- イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方を
する。また聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。
- ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、
話し合うなどして結論をまとめる。
- エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、
まとまりのある文章を書く。

また、「未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることを指導するように配慮すること」とも明記されている。

新学習指導要領では、授業が英語でのコミュニケーションの場であると考え、授業を英語で行うことが基本と明記されている。しかし、現状を考えると、これらの言語活動を英語で行っていくには、まずはこれまで以上に授業の中で英語を聞いたり話したり書いたりする機会を段階的に増やしていくことが重要である。そして、英語で得た情報を自分の中で整理、理解し、それに基づいた自分の考えを英語で伝えることに、生徒が徐々に慣れていけるような段階的指導ができないかと考えた。抵抗なく英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することを目指し、この研究に取り組んだ。

2 生徒の実態及び仮説の設定

(1) 事前アンケート

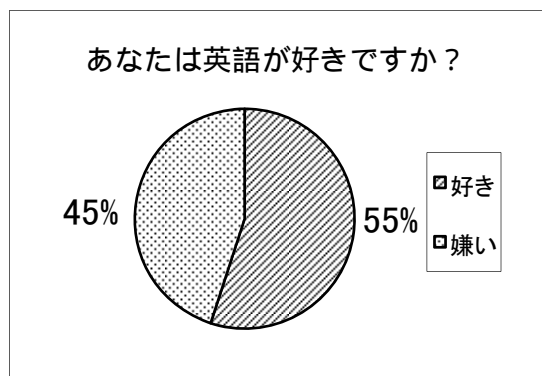
5月下旬に、英語学習に対する意識を調査するために、アンケートを実施した。今回調査対象とした生徒は「人文・国際コース」に属しており、外国語の科目を3年次で9単位履修している。英語 は2年次から引き続きの履修であり、3年次では3単位の履修となる。

<実施したアンケート> 対象：3年人文国際コース 2クラス36名

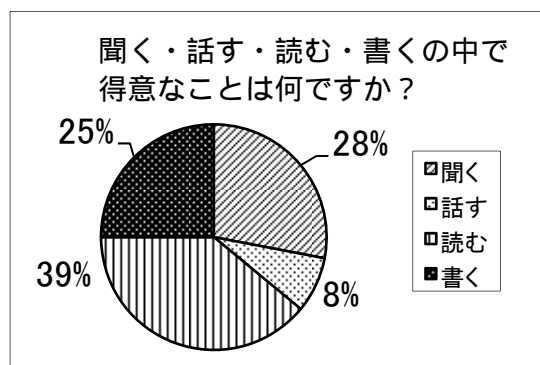
- 問1 あなたは英語が好きですか？ はい ・ いいえ
 問2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で得意なことは何ですか？
 問3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で苦手なことは何ですか？
 問4 「聞く」「話す」「読む」「書く」に関して、英語でどのようなことができるようになりますか？
 問5 英語は必要だと思いますか？ 思う ・ 思わない

<アンケート集計結果>

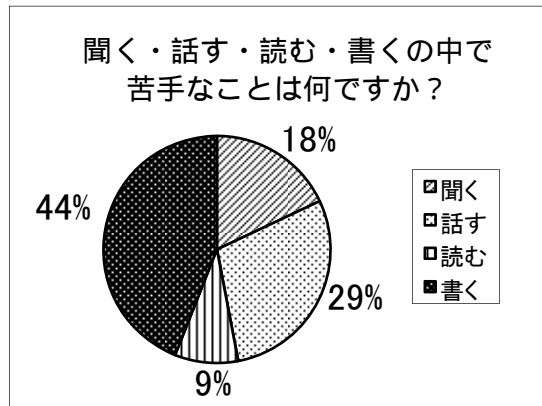
問1



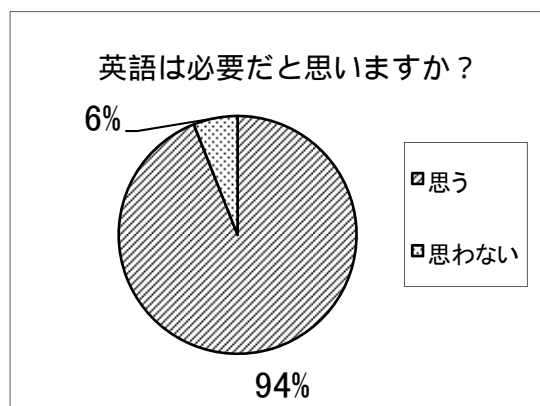
問2



問3



問4



問4（多いものを抜粋）

「聞く」ことに関して

相手の言いたいことがわかる / 外国人が話していることがわかる

「話す」ことに関して

外国人と会話したい / 自分の言いたいことを相手に伝えたい

「読む」ことに関して

分からない語があっても内容を把握できる / スラスラ読める / CDみたいにきれいな発音で読める

「書く」ことに関して

スペリングミスや文法の間違いなしで書ける / 手紙が書ける / 言いたいことを伝える文が書きたい

アンケートの集計結果から、生徒の半数以上が英語を「好き」と回答し、「読むこと」を得意としている生徒が多いことが分かる。これは、これまでの授業の中で、和訳することを含めた「読むこと」に関する言語活動が多く、比較的抵抗なく取り組めることが要因の一つだと考えられる。一方、大半の生徒が「書くこと」を苦手と感じ、次いで「話すこと」とアウトプットに対する苦手意識を強くもっていることがわかる。しかし、問4では「話すこと」「書くこと」ことについて、「自分の言いたいことを相手に伝えられるようになりたい」と多数の生徒が回答している。このことから、生徒は自分のことを英語で表現したい気持ちをもってはいるが、英語に対する苦手意識があったり、自信がなかったりして、積極的に自己表現活動に取り組めないのではないかと考えられる。

(2) 事前アンケートに基づく仮説

アンケート結果から、以下の仮説を立てた。

仮説1 教員が授業中になるべく英語を多く発話することで、英語に触れる機会を増やし、教員と生徒のコミュニケーションを英語で図っていけば、英語を通したコミュニケーションへの興味・関心を高めることができる。

仮説2 苦手意識の低い「読む」「聞く」ことを中心とした言語活動を、身近な話題をテーマにした「書く」活動や「話す」活動につなげていくことで、英語に対する抵抗をあまり感じずに、自己表現活動へとつなげることができる。

仮説3 ペア → グループ → クラスルームと、コミュニケーションの対象を広げることで、意欲的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を段階的に身に付けることができる。

(3) 到達目標の設定

これまでの英語の授業の指導手順は次のとおりであった。

- a) 新出語彙・重要語句の意味を辞書で調べる。
- b) 本文C Dを聞き、音読をする。
- c) ワークシート(資料1)を配布し内容理解の確認を行う。
- d) 文和訳を穴埋め形式で行う。
- e) 音読をする。
- f) 文法事項を説明し、演習をする。

これまでの指導では、全て日本語で解説・内容理解を行っており、英語を「読む」「聞く」活動はあったが、「話す」「書く」活動がほとんどなかった。

< 資料 1 >

Lesson 7 Horie Ken'ichi ②
堀江さんの日記の一部を見てみましょう。

October 27, 2004. Cloudy.

There was a small ^嵐storm last night. A ^{北東の}northeasterly wind ^吹blew through the night at about 20 meters ^{毎に23秒}per second.

November 9, 2004. Fine weather.

Tonight, ^{北極星}the Pole Star fell near the ^{地平線}horizon. It will soon be ^{視野}out of sight. It seems to be saying, "Goodbye."

May 31, 2005. Fine, sometimes cloudy weather.

I talked with some 6th graders in Kobe on the ^{衛星の}satellite phone. We talked about ^{環境の}environmental problems and ^{災害}disasters and had a good time.

June 4, 2005. Fine weather.

As I ^{近づく}approach Japan, I find more ^{浮かぶ}floating objects, such as PET bottles, in the sea.

During the ^{航海}voyage he said to his friend on the phone, "I had a dream ^{最近}recently about a new yacht for my next voyage."

Horie Ken'ichi is a real adventurer.

まとめてみよう いつ・何があったのかまとめてみましょう

日付	天気	できごと
2004.10.27	くもり	小さな嵐があった。北東の風が一晩中秒速23メートルで吹いた。
2004.11.9	はれ	水平線近くに北極星が落ちた。すぐに視野から消えた。
2005.5.3	はれ時々くもり	神戸の6年生と電話で、環境や災害について話した。
2005.6.4	はれ	日本に近づくにつれ、ペットボトルなどがたくさん浮かんでくるのを見つけた。

☆ 堀江さんが友だちに語った夢とは？
次の航海（新しいヨットで）について

☆ 波線部を日本語にしてみよう
堀江さんは、本物の冒険家だ。

普段の授業からも、「英語は好きだけれど苦手」という生徒が多く、英語に対する興味・関心はあるものの、科目としての英語を学習することには苦手意識が強いことは容易に理解できる。辞書ひきや問題演習などの作業的活動には黙々と取り組むが、授業中の発言は少なく、表現活動には非常に消極的である。今回の研究では、英語でのインプットを十分にするために、まずは授業を英語で行うこととした。まず、教師の英語の発話を、次に生徒同士で英語での対話の機会を増やし、少しずつコミュニケーションを図ることへの意欲を高める。そして、アウトプットの活動を効果的に取り入れ、生徒の自己表現力の伸長につなげていくようにした。段階的に指導することで、英語で自分を表現することへの自信をもたせ、英語を使うことや人とかわかることの楽しさを実感させたいと考えた。

「まずは授業中の英語でのインプットを徐々に増加し、情報や考えを整理してアウトプットさせる活動につなげる」ことを到達目標とし、月ごとの到達目標を設定して検証することにした。

3 本研究の流れ

本研究は以下の流れで実施した。

5月下旬	事前アンケートを実施する。
	↓
6月	Lesson 5 の授業を実施する。 授業中に英語でのインプットの機会を増やす工夫をする。
	↓
7・8月	Lesson11の授業を実施する。 教科書の内容に基づいて、自己表現活動を取り入れる。 授業中、教師と生徒が英語でインタラクションを取るようになる。
	↓
9月	Lesson 6 の授業を実施する。

	教科書の内容を少し発展させた自己表現活動を行う。 生徒同士でのインタラクションがとれるような活動をする。
	↓
10月	Lesson 9 の授業を実施する。 教科書の情報を整理し、自分の考えをまとめ、それを伝える活動 (アウトプットを意識した活動) をする。 生徒同士でコミュニケーションが図れるようにする。
	↓
11月	事後アンケートを実施し、研究の考察をする。

4 実践内容

(1) 6 月 使用テキスト ENGLISH NOW Lesson5 *Mottainai* (開隆堂)

到達目標

英語を聞いたり読んだりして、題材についての基本知識を得ることができる。
英問英答をしたり絵を用いたりして、教科書の内容を理解することができる。
教科書の内容について、自分の体験を英語で書くことができる。

指導目標

写真を提示したり、簡単な Q & A をしたりしながら内容について英語で説明し、授業の概略をつかめるようにする。
英問英答をしたり絵を活用したりして、内容理解を図る。焦点をしばり、答えを本文中から抜き出せるような設問になるように工夫する。
単元のテーマについての体験談を英語で書かせる。その際、例文とそれについてのイラストを提示し、積極的に活動に取り組めるようにする。

(ア) 活動事例 英語で導入 (Oral Introduction) をする

Wangari Maathai さんについて、写真を見せ、英語で説明をして理解させる。その際、本文理解の助けとなるよう、彼女の出身地や「もったいない」という言葉についても簡単な英語で補足説明をする。

- 指導手順と留意点 -

- プロジェクターを用いて写真 (資料 2) を提示し、その人物が誰であるか質問する。マータイさんであることを確認させる。
- マータイさんについての Q & A を行い、彼女の出身地・職業を理解させる。答え (Kenya / Professor) についても簡単な英語で説明し、本文理解の助けとなるようにする。
Oral Introduction は初めてのことなので、質問した後に英文を提示し、文字で確認させた。
- 「もったいない」という言葉がマータイさんによって世界に広められたことを、英語による Q & A で確認する。

< 資料 2 >

Q.1 Do you know her? 	Q.2 Where is she from? a. Kenya b. the United States c. India
Q.3 What is her job? a. Farmer b. Doctor c. Professor	Q.4 What is her favorite Japanese word? a. Arigatou b. Sumimasen c. Mottainai

(イ) 活動事例 英問英答をすることで内容を理解する

本文の内容を理解させるために、英語で書かれた Comprehension Question に答えさせる。

- 指導手順と留意点 -

- ワークシート（資料 3）に書かれた Comprehension Questions に英語で答えさせる。答えを本文の中から抜き出せる質問を設定し、英語での質問に英語で答えることができたという達成感を得させる。
- 内容理解の確認のため、簡単な Summary 埋め形式で完成させる。

Comprehension Question

- What did Wangari Maathai learn in Kyoto in 2005?
She learned a Japanese word, mottainai.
- Why did she like the word?
Because she knew that it was not good to waste things.
- What did she do to spread the word around the world?
Then at a meeting in the United Nations she talked about this Japanese word and introduced the idea of mottainai.

Summary

In 2005, she met a Japanese word (① Mottainai) in Kyoto. She liked the word very much, and talked about the word and the (② idea) of Mottainai at a (③ meeting) in the UN.

(ウ) 活動事例 絵を用いて内容を確認する

本文の内容理解を促す。

- 指導手順と留意点 -

- 各自で本文を読む。和訳はしない。
- ワークシート（資料 4）を配布する。本文の内容を表す絵を 5 枚提示する。それを本文の流れに沿って並べ換えさせる。絵が内容理解の助けとなるように、簡単な英語を補足として加える。周りと相談してもよいことにする。

< 資料 4 >

	
	
本文の流れどおりに①～④を並べてみよう！ () → () → () → ()	

(エ) 活動事例 自分の体験を英語で書く

レッスンのまとめとして、自分が「もったいない」と感じることを英語で書かせた。教科書のテーマは「リサイクル運動」であるが、それに限定せず身近な体験談を書かせることで題材が増え、自由な発想ができ積極的に活動できると考えた。また、例文もリサイクルとは関係ないものを提示した。

- 指導手順と留意点 -

- ワークシート（資料５）に書かれた例文について説明する。生徒が共感できるような内容にし、「私だったら」とイメージできるようにする。
- 自分の「もったいない体験」を英語で書かせた。生徒が書く意欲を失わないように、パラグラフライティングではなく、２～３文でよいことにする。
- 書いた英文を隣の生徒に見せ、それについて共感できるか、意見交換をさせる。

< 資料 5 >

Lesson 5 Mottainai ①

Your "Mottainai" Episode

Example !!!

I returned a rental DVD two days later after the due date.

I bought clothes. But I don't wear yet.

What does "Mottainai" mean?

I feel "Mottainai" when I waste _____.

a) time
b) money
c) food
d) energy
e) other ()

もったいない
① 神仏・貴人などに対して不都合である。
② 過分のことでおそれ多い。
③ そのものの値打ちが生かされずムダにするのがおしい。
広辞苑より

Class 3- () Name

(オ) 6月の研究内容の考察

少しずつ活動の難易度を上げながら、４種類の活動を実施した。授業で教師が英語を発話する回数も日ごとに増やしていったが、生徒は思ったほど負担に感じていないようであった。日本語を全く使わないわけではなく、生徒の状況を見ながら英語と日本語をバランスよく授業に取り入れるようにしたためではないかと思う。今後は教師の発話する英語をさらに増やしていくことと、生徒の発話量を増やしていくことが課題である。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

到達目標 : 写真やパワーポイントなどの視聴覚教材を使うことで英語を用いてスムーズに導入することができた。

到達目標 : 教科書の本文を読むことには慣れているため、比較的理解しやすく、設問に対する正答率も高かった。英語で答えることについては戸惑っている生徒もいたが、本文から答えを抜き出せるようにすることで、自信をもって答えを書くことができたようになった。

到達目標 : モデルセンテンスを提示したり、書く文を２、３文でよいとしたりしたため、普段はなかなか自発的に自由英作文に取り組めない生徒も積極的に活動に取り組んでいた。時制や人称等の間違いは多かったが、英語で書くということにあまり抵抗を感じず、自分の体験を英語で表現しようとする前向きな姿勢が見られた。また、生徒同士で互いの英文を読み、意見交換することで、自分が伝えたいことを理解してもらえる喜びを感じることができたようである。

(２) 7・8月 使用テキスト ENGLISH NOW Lesson 11 Free the Children (開隆堂)

(ア) 6月の考察に基づく工夫改善

生徒は身近なテーマであれば自己表現活動を英語で行うことに抵抗を感じない。そのため、生徒の自由な発想を表現する活動を授業に取り入れることにした。さらに、教師も生徒も発話量を増やすために、英語を用いて新出単語を確認する指導を工夫することにした。しかし、意味を知らない語をさらに英語で理解することは困難であると考え、まずは日本語と英語を用いて意味を理解させ

る活動を行うようにした。

到達目標

- グループの中で自分の考えを英語で述べることができる。
- 英語での説明を聞いて、題材についての知識・情報を得ることができる。
- 教科書の内容について、自分の意見を英語で書くことができる。

指導目標

- グループでレッスンのテーマについて話し合いをさせ、意見を発表させる。活動を通し、自分の意見を英語で相手に伝えることを経験させる。
- 児童労働についてパワーポイントを用いながら英語で説明し、それについて興味・関心をもたせる。
- 主人公の立場になり、自分の意見を英語で書き、内容理解を深めさせる。

(イ) 活動事例 レッソンの導入として英語でグループディスカッションを行う

「児童労働」について学習する前に、「大人と子どもの違い」についてグループで簡単な話し合いをさせた。一人ずつ意見を発表するのではなく、グループの考えを話し合ってまとめさせることで、英語で自分の意見を述べることへの抵抗感を減らし、活発な意見交換ができるようにした。



- 指導手順と留意点 -

< 資料 6 >

- a) ワークシート（資料6）を用いて、グループで「大人と子どもの違い」について話し合わせる。思いついたことを、文章ではなく、箇条書き（単語だけでもよいとした）にするよう指示し、活発な意見交換を促す。
- b) グループでまとめた意見を、板書させる。他のグループの生徒に理解してもらえるよう、できるだけ分かりやすい英語で表現するように指導する。

Lesson 11 Free the Children ①

INTRODUCTION

What is the difference between Children and Adults?

- Workers or Students
- Get a job or go to college
- Can drink alcohol and smoking
or
can't drink alcohol and smoking.

Do you know "Child Labor"?

Yes / No



- c) 複数のグループから "worker" "student" という意見が出たことを確認し、児童労働について写真などを使って英語で説明する。

< 資料 7 >

(ウ) 活動事例 自分の意見を英語で書く

内容理解を深めるため、主人公の立場になって「自分ならこうする」という具体的な意見を書かせる。

- 指導手順と留意点 -

- a) 本文の内容理解を行う（前時）。
- b) ワークシート（資料7）を配布し、「もしあ

Think about ...

Q.1 How old was Craig at that time?

→ He was twelve years old

Q.2 What would you do if you were Craig?

[I examine about child labor in detail / Good!!]

Q.3 What did Craig do?

[He made objection organization
He appealed many people.]

あなたがCraigだったらどうするか。」という質問(Q2)に英語で答えさせる。文の長さなどの条件は与えず自由に意見を書かせる。

- c) 数名の生徒に意見を発表させる。他の生徒には発表をよく聞いて、賛成か反対かを考えさせる。
- d) 「Craigは何をしたか」(Q3) を予想させ、英文で書かせる。

(エ) 7・8月の研究内容の考察

英語でコミュニケーションを図るためには、まずどれだけ英語を発話できるかということがポイントになる。指示を英語で出すのはもちろん、生徒との英語でのインタラクションを心がけた。

事前アンケートからも分かるように、生徒は、「話す」ことよりも「書く」ことに苦手意識を感じている。しかし、生徒の現状を考えると、頭の中で文を組み立て、英語でスムーズにやりとりをすることは難しい。一度伝えたい内容を文章にしないと、生徒の不安は大きくなってしまふ。英語でコミュニケーションを図るためには、まずは自分の意見を「書く」活動を指導に取り入れることが必要であると考え、少しずつ書く活動を行った。生徒は苦手意識の強い「書く」活動にはやはり消極的になってしまうが、書く内容を工夫したり、ペアワークなどで相談し合えるようにしたりすることで、「書く」ことへの抵抗を少なくする工夫をした。

グループでのディスカッションでは、何とか自分の考えを伝えよう、相手の考えを理解しようとお互いに努力する姿が見られ、相乗効果で活発な話し合いができていた。生徒に感想を聞いたところ、やってみると楽しいという意見が多かった。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

到達目標 : 英文ではなく単語で意見をまとめさせたことで活発な意見交換ができた。

到達目標 : 児童労働について知らない生徒がほとんどであったが、実際の児童労働者の写真や仕事の内容などを紹介したことで、興味・関心が高まり、日本語ではあったが「なぜ子どもが働かなくてはいけないのか」「学校に通えることが幸せだ」などの意見が多く出された。

到達目標 : ワークシートが、初めから意見を求めるのではなく、質問に対する答えを書く形式であったため、抵抗なく英文を書くことができ、多種多様な意見が挙げられた。これまではワークシートに何も書かない生徒が何名かいたが、全生徒が意見を書くことができた。

(3) 9月 使用テキスト ENGLISH NOW Lesson 6 GM Foods (開隆堂)

(ア) 7・8月の考察に基づく工夫改善

生徒は、英語で自分の意見を書くことには徐々に慣れ、あまり抵抗感を感じなくなった。しかし、単語から文章にはなってきたものの、まだ数文しか書くことができない。また、「文を書く」ことに精一杯で、文のつながりや英語としての正確さを意識することまでは到らず、内容としてはまだまだ不十分である。

何度かグループの中で話し合う活動を行い、全員が自分の考えを発言したり、相手の意見を理解しようとしたりするようになり、意欲的に取り組むことができるようになってきた。しかし、「伝えよう」「聞こう」という意識は強いものの、伝える内容は、文章で言うところの多くの場合一文程度である。また、聞く側も、聞いたことに対して何か応答するというようなインタラクションはなく、一方通行の情報伝達である。

そこで、教科書の内容理解の際に、意見とその根拠など、プラスアルファの文を加えて自己表現できるような活動を取り入れることにした。また、さらに英語でのインプットを増やすために、語

句や本文の内容理解を「読む」「聞く」活動を継続して行うこととした。内容的には難易度の高いレッスンであるが、図や写真を使った導入や、本文中から答えを抜き出せる形式のComprehension Questionsを工夫し、生徒の内容理解を深めるようにした。

到達目標

図や写真を用いながら、抽象的な語句や遺伝子組み換えについて英語での説明を聞いて理解することができる。

本文の内容に関する英語で書かれた質問に答えることで、内容理解を深めることができる。

テーマについて、本文の表現を参考にしながら自分の意見を英語で書き、発表することができる。

指導目標

抽象的な語句やテーマを、図や写真、身近な例などを挙げながらできるだけ簡単な英語で言い換えて説明し、理解させる。

本文の要点となる部分について簡単な英語で質問し、それに答えさせることで、内容理解を図れるようにする。

自分の意見（賛成・反対）とその根拠を、本文の表現を参考にして英語で書かせることで、内容理解を深めさせる。

まとめの活動として、テーマについての意見をグループ内で発表し、それについてさらに話し合うことにより、生徒同士でのインタラクションを図れるようにする。

（イ）活動事例 英問英答により内容を理解する

本文の内容を、生徒が理解しやすい英語でパラフレーズする。いくつかの質問をし、それに答えさせながら内容理解を図る。

- 指導手順と留意点 -

- ワークシート（資料 8）を配布し、質問に対する答えを本文中から見つけ、抜き出させる。
- 答えとなる本文を簡単な英語でパラフレーズし、説明する。具体的な写真を見せ、生徒が理解しやすいようにする。

< 資料 8 >

Lesson 6 GM Foods ①

Look at Q & A on a homepage...



Q.1: How do scientists genetically modify plants?

A.1: All living things have genes. Genes decide the characteristics of plants, animals, and humans. For example, they decide whether we have brown eyes or blue eyes. Scientists can put a new gene into a plant and change its characteristics.

Q.2: Why do they want to do this?

A.2: Scientists believe that they can make plants grow bigger and stronger. Even in poor soil, more vegetables can be grown. They will look better and taste better.

Think about...

◎ What is GM Food?

put a new gene into a plant and change its characteristics
ex) Soybean, potato

◎ What are the merits of GM Food?

grow bigger and stronger
look better and taste better
in poor soil, they can grow

◎ What can the technology be used for?

Even in poor soil, more vegetables can be grown
→ they can make plants bigger and stronger
→ 野菜が育ちやすくなる / 収穫量が増える

◎ Do you want to eat GM Food? Why?

No, I don't.
Because maybe allergic to GM Food.

3- () Name _____

(ウ) 活動事例 英語で意見を書いて発表する

遺伝子組み換えのメリットとデメリットについて教科書で学んだあと、自分は遺伝子組み換えに賛成なのか反対なのかを考えさせる。本文で学んだことを基に考えさせ、自分の意見の根拠も明確にさせる。発表することを前提とした活動なので、相手に分かりや語を用いたり、正確な英語で書いたりすることが必要になる。どのように伝えれば相手が理解しやすいかも考えさせる。



- 指導手順と留意点 -

- a) ワークシート（資料8）の最後に、遺伝子組み換え食品に賛成か反対かを書かせる。
- b) a)の根拠を書かせる。本文をそのまま抜き出しても自由に書いてもよいこととするが、書いたものを見せるのではなく、口頭で自分の意見を相手に理解してもらうことを意識させ、どのように表現すればよいかを考えさせる。
- c) 自分の意見をグループの中で発表させる。的確に伝えるためには、原稿を読むのではなく、アイコンタクトやジェスチャーなど、効果的な伝達手段は何かを考えなければならないことを指導する。
- d) グループの中でそれぞれの意見について話し合う。具体的には、発表された内容について、同意するか・しないか、その理由は何かを述べるように指導する。一方的な情報伝達にならないように、必ず発表内容について話し合いをするようにさせる。

発表内容が理解できなかったときは、もう一度発表してもらってもよいとする。ただし、その際は伝える側はなぜ伝わらなかったのか、聞く側はなぜ理解できなかったのかをよく考えてから、二度目の発表をするように指導する。

(エ) 9月の研究内容の考察

継続して行っている英語でのOral Introductionや教科書の内容に関する英問英答に関しては、教師が発話する英語も、ワークシートなどで使用する英語も徐々に難易度を上げたが、慣れてきたこともあり、生徒は十分に理解できているようである。今回のレッスンは遺伝子組み換えに関するもので、生徒にとってはあまり身近に感じられない話題であったが、何とか英語でのアウトプットの活動を取り入れる工夫をした。グループでのディスカッションには慣れてきていたので、学んだことに基づいて情報や意見を整理して、自分の意見を述べ合う活動を行った。多少時間はかかったものの、生徒たちは自分の意見を伝える適切な表現や効果的な伝達方法などを考え、積極的に活動に参加していた。

しかし、以前からの課題である、発話する英語の正確さに関しては、生徒は意識するようにはなってきたもののまだまだ不十分である。また、「書く」活動をしてから「話す」活動を行うと、どうしてもスクリプトに頼ってしまい、「読む」活動になってしまう。そのため、インタラクションは取れているものの、効果的なコミュニケーション活動としては成立していないと思われる。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

到達目標 : 身近な例を挙げたり、実際に遺伝子組み換え食品を提示したりしながら、遺伝子組み換え食品について説明することで、基本的な知識を英語で理解することができた。また、Comprehension Questionの答えを本文から抜き出させ、それをさらに簡単な英語で説明することで、本文の理解を深めることができたようである。

到達目標 : 約半数の生徒が本文から自分の意見の根拠となるものを抜き出していたが、本文にない語句を調べたり、インターネットなどでさらに詳しく調べたりして、自分の意見を発表する生徒もいた。発表については、自分が書いた意見を読み上げる生徒が多く、コミュニケーション活動としてはまだ十分とは言えない部分もあった。

(4) 10月 使用テキスト ENGLISH NOW Lesson 9 *Lena Maria* (開隆堂)

(ア) 9月考察に基づく工夫改善

前述のように、少しずつではあるが、自ら考え、それを英語で表現する活動に慣れてきたように感じる。しかし、これまでは本文中にヒントがあったり、教師が途中まで誘導したりと、ある程度情報を与えたり、状況を設定したりした中での活動であった。

そこで、何もない状態から自分で構成を考え、文と文とのつながりを意識して英文を書くという活動をさせることにした。さらには、これまでは教師が新出単語や本文を既習の単語で言い換えてきたが、生徒同士で簡単な英語で言い換える活動を取り入れることにした。また、最終的には、スピーチという形で、自分の意見などを相手に伝える活動の機会を与え、「話す」という形の自己表現活動をするようにした。

到達目標

新出語句・重要語句を日本語ではなく簡単な英語で言い換えることで語句の意味を理解できる。また、簡単な英語で、新出語句の意味を説明することができる。

テーマについて、自分の意見をまとめ、グループやクラスで発表することができる。

相手の考えを理解し、自分の考えと照らし合わせて、意見交換ができる。

指導目標

新出語句などを英語で言い換えたものを読んだり、書いたりさせることで理解を深めさせるとともに、語句等を分かりやすい英語で説明することができるようにする。

スピーチ形式での意見発表で、どのようにして自分の言いたいことを的確に相手に伝えるかを考えさせ、実践させる。

スピーチを聞き、相手が伝えようとしていることを正確に理解し、それに対する自分の考えを述べるように指導する。

(イ) 活動事例 英語で新出語句や重要語句の意味を理解する。

—指導手順と留意点—

- ワークシート(資料9)を配布し、新出語句などを簡単な英語で言い換えながら教師が本文を説明する。できるだけ生徒が理解できる単語で説明する。生徒には特に新出単語に注意しながら聞くように指示する。
- 新出・重要語句と、それらを分かりやすい語で言い換えた文とを組み合わせるように指示する。その際、a)で教師が説明した英文や本文を参考にするよう指示する。
- 日本語で意味を確認しないと理解できているか不安だという生徒もいる場合には、マッチングが終了した後、辞書で意味を確認させる。

< 資料 9 >

Words and Phrases

disabled people	behave in some special way
treat	in different way
differently	normal
natural	people who live next to you or near you
society	in the place of ~
neighbors	people who are unable to use a part of their body completely or easily
instead of ~	the group which we live in or the people living in the same group

* I used a pencil instead of a pen.

COMPREHENSION Good / Bad points of Sweden

Good Sweden is a very good country.	Bad Sometimes disabled people are treated differently.
---	--

think about What do you think about Japan?

I think Japan is a bad country because there are a lot of earthquakes, and in addition, there are many crimes. However, Japan has good points. Japan declared that it will not have war and weapons.

< 資料10 >

Lesson 9 Lena Maria ②

Lena Maria is a singer in Sweden.
 She has bright smile and beautiful voice.
 She has attracted many audiences with them.

Interviewer: How have you been?
 Lena Maria: Very well, thank you. I've been enjoying my life. This year I've given a lot of concerts and I've also recorded a new CD. I've also been enjoying married life!

Interviewer: Do you and your husband share the housework?
 Lena Maria: Yes, of course. My husband often makes the dinner. He's a good cook!

COMPREHENSION

What has Maria been enjoying?
This year she's given a lot of concerts and she's also recorded a new CD.
She's been enjoying her life.

Explain the meaning of the words.

"Share"	Cut a half cake. Put up the half cake for you. Eat the half cake with me.
"housework"	Cook and clean in the room.

(ウ) 活動事例 語句を英語で言い換えることで、理解を深める。

活動 を発展させ、生徒に語句を英語で言い換えさせる。最初は二つのペアで活動させ、あるペアが英語で言い換えたものを別のペアがマッチングをするという活動にした。何度か実施し、生徒が慣れてくるとペアワークにし、一人が英語で言い換え、もう一人の生徒がそれをマッチングする活動に発展させた。

—指導手順と留意点—

- ワークシート（資料10）を配布し、新出語句・重要語句の意味を辞書で調べる。
- 調べた語句を、その意味を分かりやすい英語で言い換える。説明できない時には、その語句の例を挙げたり、文章でなく単語のみ説明したりと、ペアで工夫するように指示する。伝わりやすい英語で表現することが重要であることを指導する。
- ワークシートを交換し、新出語句と言い換えた英語をマッチングをさせる。その際、英語の間違いに気づいたら訂正し合うように指示する。また、自分が英語で言い換えた文を読み、相手にどの語句の説明であるかを答えてもらうなど、コミュニケーションを図りながら確認するという方法も取り入れる。

(エ) 活動事例 自分の意見を英語で発表する

本文では、“What do you think about Sweden?”という問いに対し、Lena Mariaが自国スウェーデンに対する自分の意見を述べている。そこで、生徒に対して“What do you think about Japan?”という問いかけをする。自国日本に対する自分の意見をまとめ、スピーチとして発表させることにした。



—指導手順と留意点—

- a) ワークシート（資料11）を配布し、日本について自分の意見をまとめさせる。本文の表現を参考にしてもよいとする。7文以上で書くように指示する。生徒が英文を書きやすいように、教師自身の考えをモデルとして提示する。また、文のつながりなどを意識し、正確な英文が書けるように、教師が机間指導をして、生徒のサポートをする。
- b) 生徒が自信をもって発表できるよう、スピーチの原稿となる英作文は提出させ、添削して返却する。返却後、授業中に原稿を読む練習をする時間を設け、発音等についてアドバイスをする。発表は原稿を見ないで行わせる。その際は絵などを用いてもよいとする。
- c) 4～5人のグループになり、意見を発表させる。全員が発表した後、自分の意見と周囲の意見を比較しながら、意見交換をさせる。疑問に思ったこと、賛成できること、賛成できないことなどについて話し合うように指導する。なるべくグループとしての意見をまとめさせる。
- d) グループで代表者を選び、クラスで発表する。聞き手は、発表の内容についてコメントを書き、発表者にフィードバックするように指導する。

<資料11>

Lesson 9 Lena Maria

What do you think about Japan?

My Opinion

I think that Japan is a very good country, because every child can go to school. In Japan, children can learn many things at school. In some countries, children can't go to school, even though they want to. This is because they are poor and they must work for their family. But, some Japanese students don't study hard, don't go to school, or think about only themselves. It is necessary to understand the importance of studying at school. I want students to study many things and make good friends at school. As a teacher, I work hard so that students can enjoy their school life.

Try to write more than 7 sentences! Do your best!

POINT
日本をどう思うか。その理由は何か。日本の現状で問題点はないか。それに対してどう思うか。どのような解決策が考えられるか。自分はこれから何ができるか。などを考えて書いてみましょう。

I think Japan is a good country. ^aBecause people can live ^{happily} happy. There are ^{a lot of} many food. And we have houses and clothes. But some people don't think ^{when} people. I see ^{about} other foreigners. I asked the way, ^{but} the man ^{didn't} answer. I think we should ^{be} kind people. I ^{want to} treasure my friends, my family and people ^{around me} around me. When I saw this scene, I felt unhappy.

(オ) 10月の研究内容の考察

大きく分けて、二種類の活動を行った。一つ目は、新出単語を既習の英語で言い換える活動である。二つ目は、この研究のまとめともいえるが、あるテーマに対して自分の意見を整理し、それを英語で的確に伝える活動である。どちらも、生徒同士でコミュニケーションが図れるように、相手が伝えたい情報を理解し、それに対して自分も意見を述べることにした。授業中に自分の意見を英語で伝える方法として、書いて伝えること、書いたものを読んで伝えること、自分のことを話して伝えること、の三つがあると考えているが、最初の二つの方法はこれまでも何度か行っている。今回行ったスピーチという形にも、自発的に取り組んでいた。到達目標ごとの考察は次のとおりである。

到達目標 : 新出語彙の導入において、「聞く」「読む」「書く」活動を行うことができた。自分が知っている単語で新出単語を説明することは、これまで教師が行ってきたため、生徒にとっては取り組みやすい活動であった。それぞれが工夫して英文を書いていた。また、クイズ形式で口頭での答え合わせをしたが、非常に意欲的に取り組んでおり、語の意味の確認と定着を図ることができた。

到達目標 : グループでの発表の際、相手の意見に対して即座に自分の意見を述べることに抵抗を感じている生徒もいた。AとBとの対話において、A→Bで終わりではなく、たとえ短い文章であっても、A→B→A→Bと会話が続いていくことが重要であるということは認識できているようで、発表者に対して何とか自分の意見を返そうと努力する姿勢が見られた。短い文であったり、単語であったりしたが、英語でコミュ

ニケーションを図ろうとする態度が見られた。英語で相手に何かを伝えること、相手の伝えたいことを理解すること、を楽しんでいる様子が見えた。

5 検証とまとめ

(1) 事後アンケートによる検証

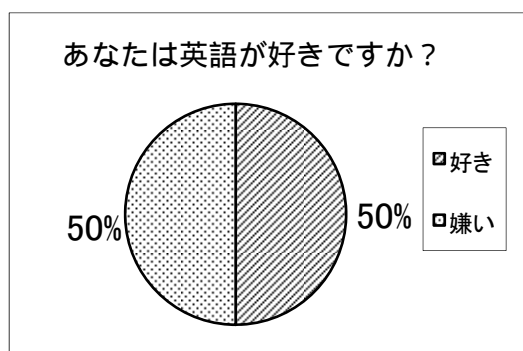
これまでの活動を振り返るために、事前アンケートと同じ内容でアンケートを行った。

<実施したアンケート> 対象：第3学年人文国際コース 2クラス36名

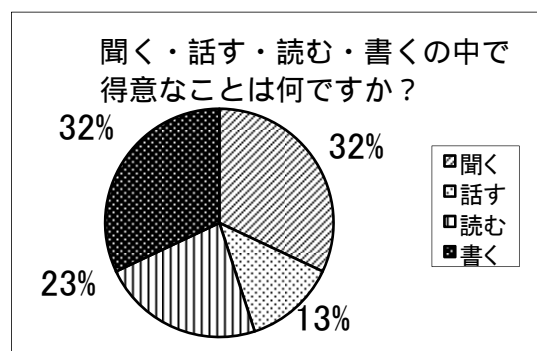
- 問1 あなたは英語が好きですか？ はい ・ いいえ
- 問2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で得意なことは何ですか？
- 問3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で苦手なことは何ですか？
- 問4 「聞く」「話す」「読む」「書く」に関して、英語でどのようなことができるようになりますか？
- 問5 英語は必要だと思いますか？ 思う ・ 思わない

<アンケート集計結果>

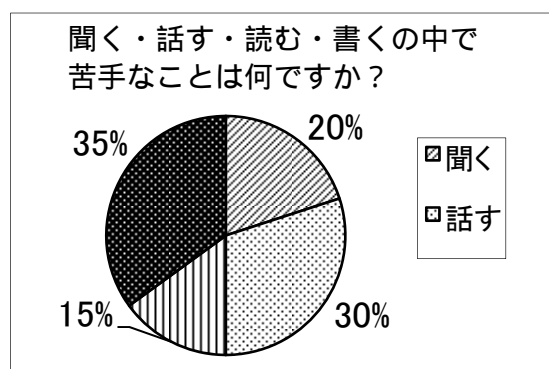
問1



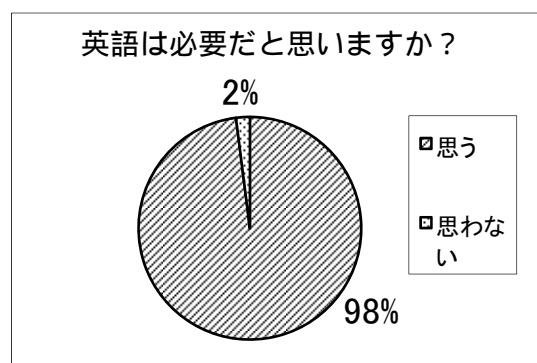
問2



問3



問5



問4 (多いものを抜粋)

「聞く」に関して

先生の説明が聞き取れる / 知らない単語も日本語がなくても言い換えた英語を聞けば意味が分かる

「話す」に関して

とりあえず話してみようと思えるようになった / 発表は苦手だけど嫌ではない
グループで話し合うのは楽しい / 自分が言いたいことを英語で言えると嬉しい

「読む」に関して

辞書をひかなくても大体の内容が把握できるようになった

「書く」に関して

単語でなら言いたいことを書ける / 少しずつ長い文章で書けるようになった

アンケートの集計結果から、これまでの活動を通して、英語で自己表現活動を行うことに対する抵抗感は減ってきていると感じる。問2から「聞く」「話す」「書く」ことを得意と感じている生徒が増えていることが分かる。また、問3からは「書くこと」に対する苦手意識をもつ生徒が少なくなったことが分かる。問4から分かることは、特に、「書くこと」に関しては、徐々に英語で書ける内容がレベルアップしたり、文法等にも留意しながら徐々に正確な文が書けるようになってきていると実感したりしている生徒が増えてきている。「話すこと」に関してはまだ苦手意識が強いが、少人数の中であれば単語をつなぎ合わせて何とか自分のことを伝えようとする姿勢も見え始めている。

(2) まとめ

研究当初に設定した仮説1～3については、さまざまな実践を通して概ね立証できたと考える。

今回の研究で最も留意したことは、段階的な指導である。まずは、教師の発話する英語を徐々に増やすなど、英語のインプット量を増やし、生徒が英語でのインプットに慣れてから、英語でのアウトプットの機会を増やしていった。また、最初は教師からの英語での一方的な情報伝達から始めたが、少しずつ教師と生徒との英語でのインタラクションを増やしていった。さらに、教師と生徒のやりとりから、徐々に生徒同士でコミュニケーションが図れるような指導を工夫した。

今回の研究いちばんの成果は、生徒が授業に対して受け身でなくなり、自発的に取り組むようになったことである。また、「英語で説明されても分からない。」とあきらめるのではなく、「分からないからよく聞こう。」という前向きで意欲的な姿勢を見せる生徒が増えてきたことも実感している。さらに、これまで日本語であっても自己表現することに対して消極的であった生徒が、英語で意見を書いたり発表したりするようになったことは大きな変化である。教師も生徒も授業中に英語を使用する機会が増えたことで、生徒は「相手が英語で言うことを理解しよう」「相手に自分の思いを英語で伝えてみよう」という意識をもつようになってきた。これは英語で「コミュニケーションを図ろうという態度」が育まれたからではないかと考える。

今後は「正確に」英語を理解し、「正確に」表現することが課題である。情報を発信したり、受け取ったりすることには、積極的に取り組むようになってきたが、伝達する内容の「正確さ」はまだまだ十分であるとは言えない。そのためには、これまでの活動に加えて、文法的な知識や更なる語彙の習得が必要となる。英語でのコミュニケーション活動を通して、それらの知識を与えられるような指導を目指し、さらに研究を進めたい。

おわりに

生徒の実態や要望など、現状を知るために、3つの事例において事前アンケートを行った。どの事例においても生徒は「読むこと」を得意とし、「話すこと」や「書くこと」を苦手としている。また、生徒ができるようになりたいことは圧倒的に「話すこと」であり、中でも英語でコミュニケーションがとれるようになりたいという希望が多い。生徒たちには、自分のことを伝えたい、相手のことを理解したいという思いがあることが分かる。どの事例でも、段階的に授業に自己表現活動を取り入れ、自分の考えを伝えることができたという達成感をもたせることで、学習に対する意欲やコミュニケーションを図ることへの意欲を高める工夫をしている。

事例 では、生徒のコミュニケーション能力の伸長を目指し、教科書の1つのレッスンの中で、ストーリーリプロダクションを中心とした言語活動を行い、生徒の自発的発言量を増やす指導をした。まずは英語に触れる機会を増やすため、教師ができるだけ英語で授業を行った。また、文法や語彙をコミュニケーションを支えるものとして捉え、ワークシート等を工夫することで、文法指導を言語活動と一体的に行う指導とした。最終的には内容に関するディスカッションを行った。そのように段階的に指導することで、相手の考えを理解し、自分の中で整理し、それに対する自分の考えを伝えようとする姿勢を身に付けさせることができた。

事例 では、和文英訳中心だった「ライティング」の授業に言語活動を取り入れることで、自己表現力を身に付けさせるとともに、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲を高めた。まず、教科書で学んだ重要表現を用いて何か自分のことを伝えるという活動から始めた。また、QUICK WRITE という英文を書かせる活動を改善し、与えられたテーマに関して、自分の考えを伝えるという形での活動を毎時間実施した。さらに、書くだけではなく、それを相手に伝えるという活動にまで発展させた。英問英答なども取り入れ、伝えることと理解すること、つまり英語でのやりとりを何度も体験させた。ライティングにおいても、様々な言語活動を取り入れ、コミュニケーション能力を伸ばすための効果的な指導ができる点に注目していただきたい。

事例 では、生徒への英語のインプット量を徐々に増やし、アウトプットにつなげた。教科書の本文を読む前後に、聞いたり、話したり、書いたりする活動を取り入れて、生徒の英語に触れる機会を増やした。生徒に自己表現活動をさせるために、段階的なタスク活動を取り入れた。パワーポイントを使用したり、ワークシートを工夫したりして、生徒の英語学習への意欲を高め、意欲的に授業に取り組ませる指導をした。生徒の現状を踏まえ、分かる授業を心がけながら、生徒の自己表現力を高めていくことができた事例である。

授業は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に指導し、生徒に英語運用能力を身に付けさせるためにある。例えば、英語を読んだらそれについて何か書く、英語を書いたならそれについて相手に伝える、相手の意見を聞いたらそれに対する自分の意見を言う、というように一つの言語活動に、何か別の活動に組み合わせることで、有機的な関連を図った指導ができる。生徒にとって魅力ある内容であること、興味・関心がもてる言語活動であることが重要な要素である。生徒の自己表現力と、コミュニケーションを図ることへの意欲を高めるためには、まず、毎日「わかる授業」を心がけることが大切である。知識を与えることはもちろん大切であるが、それを活用させる場面がある授業が、生徒にとってよい授業であると考えている。

高等学校における教科指導の充実

外国語科（英語）

コミュニケーション能力の伸長を目指した授業展開の工夫

発行 平成22年3月

栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303

URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>